

2018年度

# 中央大学ボランティアセンター報告書



## Contents

---

### 刊行によせて

学生部長 森 正明.....	4
ボランティアセンター長 中澤 秀雄.....	5
ボランティアコーディネーター 開澤 裕美.....	6
ボランティアコーディネーター 藤室 玲治.....	7

### 活動編

#### 1. 被災地支援ボランティア

はまぎくのつぼみ.....	8
はまらいんや.....	10
面瀬学習支援.....	12
チーム女川.....	14
チームくまもと.....	16

#### 2. 多摩キャンパス

1. 学内ボランティア活動	
(1) 「クリーン大作戦・春の陣」.....	18
(2) 「クリーン大作戦・秋の陣」.....	18
(3) 「クリーン作戦・ミニッツ ～30分間のゴミ拾い活動～」.....	19
2. 防災ボランティア活動	
チーム防災.....	20
(1) 中央大学附属中学校 チーム防災による授業.....	21
(2) 中央大学附属高校 授業（教養総合Ⅰ）への学生派遣.....	22
(3) 中央大学附属高校 授業（教養総合Ⅰ）における 「チーム防災」クロスロード実施報告.....	22
3. 地域ボランティア活動	
(1) めぐみ野自然の会.....	23
(2) ユギ里山ファーム.....	23
(3) せせらぎ農園.....	23
(4) 落川交流センター.....	23
(5) ひの新選組まつり.....	23
(6) まちづくり市民フェア2018.....	24
(7) 大豆プロジェクト.....	24

#### 3. 後楽園キャンパス

1. りこボラ.....	25
2. 学内ボランティア活動	
(1) 花花花見.....	26
(2) 防災ゲーム体験会.....	27
(3) ボラカフェ@後楽園.....	27
(4) 平成30年7月西日本豪雨災害 募金活動.....	28
(5) 理工白門祭.....	28
(6) 新型実践防災デイキャンプ.....	28

3. 地域ボランティア	
(1) わんぱく相撲 .....	29
(2) 山手線一周ゴミ拾い.....	29
(3) クリーン大作戦 .....	29
(4) 文京区関水町会おまつり .....	29
<b>4. 西日本豪雨災害被災地での活動報告と今後の課題</b>	
(1) 活動報告 .....	30
(2) 真備支援活動 .....	30
(3) 今後の課題.....	32
<b>5. 学内募金活動</b>	
(1) 平成30年7月豪雨災害.....	33
(2) 平成30年北海道胆振東部地震 .....	33

## 報告編

<b>6. 学内での活動報告事業</b>	
1. ボランティアウィーク	
(1) ボランティア活動写真展 .....	34
(2) ホームカミングデー（物産展）.....	34
(3) ボランティア活動報告会 .....	35
2. キャンパスライフ体験会.....	36
3. 後楽園ボランティアシンポジウム .....	37
4. ボランティアセンターシンポジウム .....	38
<b>7. 学外での活動報告事業</b>	
(1) 防災ゲームDay2018.....	39
(2) Gakuvoシンポジウム .....	39
(3) 第5回大学生ボランティア活動報告&イベント .....	40

## 学び編

<b>8. 入門</b>	
1. ボランティア講座	
【多摩】	
(1) 公務員になりたい人のためのボランティア講座 .....	42
(2) 地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー .....	42
(3) ボランティア体験×学び 振り返りワークショップ.....	43
(4) ボラカフェ .....	44
(5) ボランティア・フェア .....	45
(6) 春休み、一歩踏み出したいアナタのためのボランティアセッション.....	45
(7) 文学部ボランティア論.....	46
【後楽園】	
(1) 理工学部新入生ガイダンス .....	47
(2) 聞かなきゃ損するボランティア入門講座 .....	47
(3) ボランティア体験×学び 振り返りワークショップ.....	48
(4) 理工学部 後期オリエンテーション.....	48

<b>9. スキルアップ編</b>	
1. 「傾聴講座」.....	49
2. 代替わりワークショップ.....	50
3. 神戸スタディツアー .....	51
<b>10. 防災・災害</b>	
1. 災害ボランティアの心構え講座.....	52
2. 災害救援ボランティア講座.....	53

## 資料編

<b>11. 表彰</b> .....	54
<b>12. ボランティアセンター 利用集計</b> .....	55
<b>13. ボランティアセンター取組記録</b> .....	56
<b>14. 協定・助成金</b> .....	59
<b>15. メディア掲載</b>	
1. 大学関係広報誌	
(1) 草のみどり .....	60
(2) 中央大学学員時報.....	61
(3) 中央大学新聞 .....	61
2. 新聞記事.....	62
3. テレビ放映.....	65
4. ラジオ放送.....	65
5. 広報誌など .....	65
<b>16. 作成物掲載</b>	
1. 刊行物.....	66
2. ポスター・チラシ .....	66
<b>17. ボランティアセンター組織規約</b>	
中央大学ボランティアセンター及びボランティアセンター運営委員会設置要綱.....	67
2018年度ボランティアセンター運営委員 .....	68
2018年度ボランティアセンター公認学生団体 顧問 .....	68
ボランティア情報の取扱に関する方針 .....	69
中央大学ボランティアセンター団体登録シート .....	71

## 学生部長 森 正明



2018年度もボランティアセンター（以下、ボラセン）では、所属する学生たちと教職員、地域の方々の協力により、昨年をうわまわる活動を行ってまいりました。

現在、はまぎくのつぼみ、はまらいんや、面瀬学習支援、チーム女川、チームくまもと、チーム防災、りこボラ！などのチームに分かれてチームごとの活動拠点を持っています。こうしたチームは、単に現地での活動だけに重点を置いているだけではなく、大学において様々な角度からどのようなニーズにあった支援ができるのか、現地の新たなニーズや現状分析を行い、チーム所属の学生たちによる日頃の資料収集や討論などをベースに検討し、単年度ごとのテーマを設定して現場でのボランティア活動が行われています。詳細については、毎年の年間報告書やホームページに掲載されていますのでご参照ください。

また学内においては、「傾聴講座」などを実施している『ボランティア育成プログラム』、『災害救援ボランティア講座』には、「上級救命技能講習」や「AED利用講習会」などがあり、様々な災害や防災に役立つ講習会などを行ってきました。

なお、2018年12月には女川地区の活動に帯同させていただき、クリスマスカードを配りながら話を聞かせていただきました。仮設住宅からマンション型の生活になったことで、気軽なコミュニケーションを取る機会が減ってしまったことなど、新たな課題についても伺うことができました。

これまで、こうした活動に対して学内での表彰や学外からの奨学金支援など高い評価も受けてきています。熊本市より平成28年熊本地震感謝状を頂いた他、学会会長賞、学会奨励賞などを受賞いたしました。

2019年4月からは、これまでの成果にプラスするかたちでさらなる発展を目指して、中大ボラセンの活動が新生を迎え新たにスタートいたします。

多くの方々のこれまで以上の協力、これまで以上の期待を集めてボラセン活動を推進していただきたいと思います。

中大ボラセンここにあり。さらなる活躍を期待します。

### ■森 正明（もり・まさあき）

（中央大学文学部教授 専門分野／体育学、スポーツ社会学）

福岡県（博多）出身、1952年生まれ。1976年中央大学文学部（社会学専攻）を卒業し、1978年順天堂大学体育学部大学院修了（体育社会学）。1988年より中央大学に勤務し、2002年より中央大学文学部教授（スポーツ社会学）、現在に至る。30歳まで、全日本7人制ラグビー大会に出場していたラグーマンであり、オーストラリアやニュージーランドのスポーツ文化に触れた経験から、祭の組織とスポーツクラブ組織に関して研究を行ってきた。2014年から学長専門員（スポーツ振興担当）。2020オリ・パラ会合に出席。大学連携の中大開催を熱望する、小学校以来の自称「オリンピック博士」。

## ボランティアセンター長 中澤 秀雄



2018年度のボランティアセンター活動報告書をお届けいたします。改めて、学生の活動を支えて下さる現地の皆様に心より感謝を申し上げます。東北・熊本・岡山の被災地、多摩・後楽園の各キャンパスの地元の市民・行政・企業・NPO・学校・各種団体の皆様、神戸でご指導下さる皆様、いつもありがとうございます。資金的には、学生会およびGAKUVOの継続的なご支援という基盤のもとに、各種助成金にも応募し、赤い羽根共同募金・朝日厚生文化事業団・学生サポートセンター・キリン地域のちから応援事業など各位からグラントを得ることができました。顧問や学生部教職員の皆様をはじめ、支えてくださる中央大学関係者にも篤く御礼申し上げます。

昨年の報告書にも記述したように、ボランティアセンターの活動は単に沢山ある課外活動の一つではなく、私学助成やブランド価値向上・入学者獲得・就職実績等の経路を通じて大学の経営資源に結びついており、中央大学にとって欠かせないピースの一つになったと自負しております。2019年2月3日と5日に後楽園・多摩で開催した当センター主催のシンポジウムでのリーダー学生たちの成熟した姿は、外部からの参加者にも大きな感銘を与えました。「ボランティアセンターがあるから中央大学に入学しました」という学生が、毎年必ず出現するようになっていきます。地味に努力する中大生の行動特性にとってボランティアは非常に適的な活動であると6年間の実践を通じて確信した私どもは、この種火を次の年へと繋いでいくため、少ない組織資源の中で今年も奮闘しなければならないと思っております。

本学ボランティアセンター設立のきっかけとなった東日本大震災から8年が経過し、ことし入学した学年は3.11のとき小学校5年生だった世代になります。震災が直ぐには「自分ごと」に結びつかなくなったということですが、残念ながら私たちは、これからも日本列島に襲来するだろう多くの災害に備えなければなりません。ボラセンは、救援・復興支援の経験から「自分ごと」化した教訓を地域の防災・減災へと還元する「減災サイクル」の拠点でもあります。重ねて、皆様のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

### ■中澤 秀雄

(法学部教授 専門分野／政治社会学・地域社会学)

東京都出身。1994年東京大学卒。2001年東京大学から博士(社会学)の学位を取得。札幌学院大学社会情報学部講師、千葉大学文学部准教授を経て2009年から現職。日本社会学会、地域社会学会等に所属。主著は新潟県の原因問題を扱った『住民投票運動とローカルレジーム』(ハーベスト社)や廃棄物・原子力・環境文化等のテーマを幅広く扱った『環境の社会学』(共著、有斐閣)など。前者により第5回日本社会学会奨励賞、第32回東京市政調査会藤田賞などを受賞。2012年4月1日より学生部ボランティア担当委員、2014年4月1日よりボランティアセンター長に就任。



## ボランティアコーディネーター 開澤 裕美

ボランティアセンター設立6年目となる、2018年度の報告書を皆様にお届けいたします。

2018年度を振り返ると、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震と、災害の多い一年でありました。被害を受けられた皆様には、改めてお見舞い申し上げます。

ボランティアセンターでは、西日本豪雨の被災地へ行く学生への補助制度を新たに設けたところ、多くの学生が「何か役に立ちたい！」と現場で汗を流し、学生ボランティアの大切さと必要性を肌身で感じ、自分の言葉で語ってくれました。また、この経験をきっかけとして、後樂園キャンパスにおいて学生主体での防災訓練を1月に実施することもできました。

東日本大震災から8年、熊本地震から3年が経つ中、復興支援活動に取り組む新生は減っていくのではとの心配をよそに、予想以上に多くの学生がボランティアセンターの門を叩いてくれました。彼らは現場で地元の皆さんと接する中で、多くの学びを得ると同時に多くの疑問も感じています。それを自分の頭で考えて言葉にし、仲間と議論し、修正しながら実行するという経験を積み、一年後には見違えるほど成長していく姿に感動を覚える毎日です。ただこういったボランティア活動は、受け入れてくださる地元の皆さん、協力してくださる方々がいてこそ成り立つものです。いつも学生ボランティアを温かく迎えてくださる皆様には心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

20歳前後という、人生で大事な時期をいかに過ごすか。何かのきっかけでボランティアに出会った学生たちの成長・変容を目のあたりにできること、私自身喜びを感じている毎日です。ただ、まだまだ大学ボランティアセンターとしてやりたいこと、できることは山のようにあります。社会課題が山積している中、NPOの方々や現場で汗を流している皆さん、地域の方々にもっともっと直に会って欲しい、学んで欲しいと、力不足を実感しています。

今後も、社会の課題を自ら発見し、現場へ足を運ぶことで「他人事」を「自分事」としてとらえ、自分のできることから柔軟に取り組んでいく。そんな草の根となり社会を創造的に築いていける人財を育てられるセンターであるべく、尽力してまいりたいと思います。

### ■開澤 裕美

(中央大学ボランティアセンター コーディネーター)

京都府宇治市出身、同志社大学法学部政治学科卒業。国際ボランティア活動を企画・運営するNPO法人で関西事務局を立ち上げた後、CSR（企業の社会的責任）のコンサルタントを経て、2015年4月より現職。NPO法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）副代表・理事も務める。

## ボランティアコーディネーター 藤室 玲治



2018年7月に着任し、翌年3月までコーディネーターとして勤めさせていただきました。短い間でしたが、センターに数ある学生チームの内、チーム女川、チームくまもと、チーム防災に主にに関わり、また平成30年7月豪雨に関する支援活動も担当しました。

チーム女川では、住宅再建された方や復興住宅に入居された方々への支援を2月にはじめたばかりで、その活動をお手伝いしました。幸い、大原南区と女川北区の2地区の理解を得て受け入れていただき、学生は戸別訪問やイベント開催を通じて「(震災前や仮設住宅に比べて)近所づきがいがない」「お茶飲んで話したい」等の住民のニーズに応えていきました。東日本大震災から8年経ち、被災者の年齢も進み、若い住民は少なくなり、住民による自治活動も難しく、今こそ外部の若い力が歓迎されるのだなと感じました。

熊本県西原村では、2018年夏に完成した2ヶ所の復興住宅支援へ、仮設住宅から住民の方々が移行するタイミングに立ちあえました。一方、復興事業待ちで、まだまだ仮設住宅で暮らさざるを得ない方々も居られ、学生たちも悩みつつ、復興住宅と仮設住宅の両方で活動していました。

またチーム防災が10月の日野市の「まちづくり市民フェア」ではじめて使用した「防災百人一首」は新聞等で大きく取り上げられ、全国的に評判になりました。中央大学附属中学校での防災教育でも好評で、また老人会等でも遊ばれました。

平成30年7月豪雨では多くの中央大学生が、被災地で泥出し等の活動を行いました。また12月からは、故・黒田裕子さんが作られたNPO法人・災害看護支援機構と連携し、岡山県倉敷市真備町の仮設住宅支援の活動を行いました。幸い、朝日新聞厚生文化事業団からの助成金も得ることができ、3月末までに5回現地で活動しました。

私が勤務した9ヶ月間だけでも、中央大学の学生は次々と変わる状況に対応しながら、日本全国で新たな活動に取り組んでいます。こうした学生の力の源は、戸別訪問や現地の方へのヒアリング等を通して、丁寧に地域の方々の声を聞き、事情を良く把握して、地域の方々に寄り添う、中央大学ボラセンの伝統に基づいていると強く感じました。

一方、中央大学ボランティアセンターを取り巻く状況は、特に財政の面で厳しく、私自身も財政的な事情により、3月末にボランティアセンターを離れざるを得なかったことは大変残念です。今後もぜひ、それぞれのお立場から、中央大学の学生ボランティア活動をご支援いただければ幸いです。

### ■藤室 玲治

(中央大学ボランティアセンター コーディネーター)

大阪府大阪市出身、1974年生まれ。神戸育ち。1995年1月17日、神戸大学在学中に阪神・淡路大震災に遭遇し、避難所や仮設住宅でボランティア活動を行う。2008年に神戸大学総合人間科学研究科博士課程を修了。その後、2008年～2013年まで神戸大学学生ボランティア支援室で勤務。2013年より東北大学に移り、東日本大震災被災地での学生ボランティア活動を支援。2015年より東北大学高度教養教育・学生支援機構の特任准教授。2018年3月に東北大学退職後、2018年7月～2019年3月まで中央大学ボランティアセンターでボランティアコーディネーターとして勤務。また2006年より現在まで、NPO法人・災害看護支援機構の理事。



# 1. 被災地支援ボランティア

## 1 東北支援学生団体

### 団体の紹介：はまぎくのはな

**理念：** 私たち「はまぎくのはな」は岩手県宮古市を拠点として活動しています。「はまぎく」とは宮古市の花であり、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。宮古市は過去に数回津波の被害を受けてきましたが、その度に立ち上がり、東日本大震災にも屈することなく、復興を遂げようとしています。団体メンバーひとりひとりが「宮古の未来のために学生の自分たちには何ができるのか」を真剣に考え、自分の意見を出してみんなで話し合い、復興のお手伝いをしています。「はな」は団体メンバーや活動参加者ひとりひとりを表しています。一人の力は小さなものですが、みんなの力を合わせることで、いつの日か宮古に満開の花が沢山咲くことを願っている、という思いがこの団体名に込められています。

現在、震災から年月が経ち、復興への思いや防災の大切さも風化してきています。私たちは、現地で震災当時や現在の復興の状況、防災について学び、学童の子どもたちや公営住宅の方々と交流し、それを物産展やSNS、報告会などで発信することで、震災を忘れることなく将来に繋げていきたいと思っています。このような思いを忘れず、支援して下さる方々への感謝とともに、私たちは活動しています。

**活動場所：**岩手県宮古市

**代表者：**山本高大（文学部2年）

**所属メンバー：**田中瑠海（商学部4年）、岩元理佐子（法学部4年）、寺崎友莉（法学部4年）、奥野日香梨（法学部4年）、木下卓哉（商学部4年）、佐々木星（文学部4年）、平田祐（文学部4年）、小谷彩夏（文学部4年）、竹内千晴（法学部4年）、山崎弘貴（法学部4年）、横矢垂実（法学部4年）、米光遥（法学部4年）伊志嶺朝希（商学部4年）、伊藤啓市（経済学部3年）、糸日谷栞菜（法学部3年）、加藤みすず（文学部3年）、桑田百合子（文学部3年）、高橋俊（法学部3年）、高橋彩（法学部3年）、林莉佳子（法学部3年）、日高あきら（文学部3年）、福原一美（法学部3年）、細川まい（文学部3年）、松井亜美（法学部3年）、峯村雄大（法学部3年）、茂木彩花（文学部3年）、山周平（商学部3年）、佐藤大生（法学部3年）、内木春華（法学部2年）、江口響（法学部2年）、津久井泉実（法学部2年）、楠田安紀子（法学部2年）、新井達也（法学部2年）、石田友也（文学部2年）、矢吹莉音（文学部2年）、鹿又萌々果（文学部2年）、利根川和希（法学部2年）、中里真侑（文学部2年）、榎本由波（商学部1年）、青木さやか（文学部1年）、菱田朱衣梨（法学部1年）、中野数章（法学部1年）、上口由紀音（法学部1年）、中村有里（法学部1年）、三浦航侑（商学部1年）、山口真歩（法学部1年）、奈良崎有香（法学部2年）、小林俊郎（法学部1年）、石田大樹（法学部1年）、吉田圭佑（法学部1年）、林出宗一郎（経済学部1年）、鈴木海渡（経済学部1年）、王野ほのか（法学部1年）、秋本昂大（経済学部1年）、千葉皓輝（経済学部1年）

### 夏の活動

8月10日～8月14日 8人

8月15日～8月19日 9人

9月11日～9月15日 12人

活動内容：学童保育支援、田老地区でのフィールドワーク、鉾ヶ崎小学校でのヒアリング  
市役所でのヒアリング、みやっこベースでの傾聴、

物産展販売商品の製造元でのヒアリング、津軽石夏祭りへの参加

**冬の活動**

12月21日～12月23日 16人

活動内容：銚ヶ崎公民館の方々との交流会、宮古市役所訪問、かけあしの会さんとのコラボ商品に関する打ち合わせ

**春の活動**

2月24日～3月1日 12人

活動内容：公営住宅の方々との交流会、学童保育支援  
市役所でのヒアリング、消防本部でのヒアリング  
物産展販売商品の製造元でのヒアリング

**物産展・写真展**

9月30日 30人

場所：八王子生活実習所

10月7日 15人

場所：中央大学多摩キャンパス

11月19日～11月23日 30人

場所：中央大学多摩キャンパス 生協店舗1階

2月9日～10日 25人

場所：イオンモール多摩平の森

**学習会**

前期 回数：30

内容：震災と現地を知る  
夏の活動に向けた準備

後期 回数：32

内容：岩手県宮古市復興支援物産展に向けた取り組み  
春、冬の活動に向けた準備



# 1. 被災地支援ボランティア

## 団体の紹介：はまらいんや

**理念：**私たちの活動や一緒に過ごした時間が少しでも住民の方の支えとなり、震災で傷を受けながらも前を向いて生活できるよう、以下を団体理念として掲げています。

その「人」「地域」「暮らし」に焦点を当てた「人間主役のボランティア」であること、そして住民の方の「今日を生ききる力になること」。「人」「地域」「暮らし」上記3点は、本当に人間らしく生きるために必要なことなのです。

**活動場所：**宮城県気仙沼市鶴巻二区

**代表者：**田中泉希（経済学部2年）

**所属メンバー：**木村巨佑（法学部4年）、白須花恵（法学部4年）、赤間 環（法学部4年）、登倉めぐみ（文学部4年）、千葉麻由（文学部3年）、小林可奈（法学部3年）、中富一杜（法学部2年）、島袋桜（文学部1年）、長谷拓海（商学部1年）

### 夏の活動

9月1日～9月4日 7人

活動内容：住宅訪問

### 冬の活動

12月27日～12月29日 6人

活動内容：自治会館でのイベント活動、住宅訪問

### 春の活動

2月21日～2月24日 6人

活動内容：住宅訪問

### その他活動

#### 事前調査

内容：実際に現地で活動するうえでは、現地の方々との連携が不可欠となる。そのため、内海自治会長や生活援助員の方々と団体の活動目標や活動内容についての打ち合わせを行った。また活動地の現状についても把握し、団体活動のより詳細な内容の決定やスケジュール設定にも反映させた。

#### 1年生のための勉強会

内容：初めて活動する1年生に向けて、事前学習を行った。主に団体の設立経緯や団体の活動理念の背景の説明をした。また一年生にも自ら、気仙沼の震災当時の様子や文化・産業について調べ、発表してもらった。気仙沼スタディーツアーと合わせることで、実際の活動をイメージできるようにした。

#### 気仙沼スタディーツアー

内容：面瀬学習支援団体と合同で新入生のための気仙沼スタディーツアーを企画した。気仙沼市議会議員の今川さんから震災当時や復興状況、町の様子のお話を伺いながら、車で市内を回った。実際に自ら被災地を訪れることで、被災地の現状や課題の把握につながった。

#### 傾聴講座

内容：お茶会や訪問活動など住民の方々と向き合ってお話しさせていただくことが多い当団体にとって傾聴の姿勢を身に付けることは極めて重要であるとの事から、ボランティアセンター主催の傾聴講座に参加した。相手の表情や仕草をよく観察してお話

を伺うことや、話を聞く際の態度や相槌の打ち方など、相手と接するうえで留意すべき点を教えていただいた。

### 活動について

当団体は、今年度の活動をもって現地での活動を終了することとなった。活動地であった鶴巻二区は、結成当初は住民の方同士の交流も少なく、実際に学生が訪れた際にも外を出歩く住民の方をほとんど見かけないという現状であった。しかし、時間が経過するとともに自治会の結成や自治会館の設立がなされ、また住民の方同士の交流も見受けられるようになっていった。同時に、団体は「住民の方一人ひとりが何かしらのコミュニティに属する」という目標を立て活動に臨んできたが、活動を重ね住宅一軒一軒を訪問しお話を伺う中で、上記の目標が成されたことも確認することができた。このような住民間でのコミュニティの形成や、地域全体を取りまとめる自治会の結成及び自治会活動の活発化、そして団体目標の達成という観点から活動を終える決断に至った。



## 団体の紹介：面瀬学習支援

**理念：**学校とも家庭とも違う、子どもたちのための居場所(=第三の居場所)をひらく

私たちが対象としているのは、面瀬小学校・中学校に通う子どもたちです。私たちは2012年から子どもたちが第一尊重され、リラックスして勉強したりのびのび遊んだりできる場を開いてきました。

震災から8年を経た今の気仙沼では日本の抱える問題がより露呈しています。そこで、まずは自分たちがアプローチすることで変えていけるところから少しずつ変えていこうと考えました。それは、今までの活動で築いてきた学校や子ども、保護者、地域との信頼関係がある面瀬に継続的に関わり、その地域で外の地域から来た大学生にしかできないことをすることです。それが大学のない気仙沼で、学校の先生でも家庭の中の親でもない大学生と関わる場を子どもたちに開き続ける意味です。他所から来た大学生にしかできないこととは、自分たちが経験してきたことを話すことにより子どもたちの見聞を広め、将来の選択の幅を広げ、最終的に様々な場面・分野で活躍し、地域の誇りとなるような人を育てる一助となることです。

今後の課題は、気仙沼市面瀬小学校や地域の方々との連携をより強めることです。小学校の職員の方々との話し合いの回数を増やしたり、地域の交流会に積極的に参加したりすることで、団体の理念を大切にしつつ、さらに地域に密着した活動を目指していきます。

**活動場所：**宮城県気仙沼市面瀬地区

**代表者：**門澤龍世（法学部2年）

**所属メンバー：**金野光（経済学部4年）、大谷夏子（文学部4年）、山本純司（商学部4年）、栗原夏海（経済学部4年）、村越博行（商学部4年）、荒瀬可純（文学部4年）、平井翔子（文学部4年）、櫻井里南（文学部4年）、梅森隼（総合政策学部3年）、竹井希実（法学部3年）、常盤真菜（商学部3年）、向山碧杜（法学部3年）、櫻井真子（文学部2年）、松阪恵美里（法学部2年）、山本聖菜（法学部2年）、中川陽平（法学部2年）、林凜子（商学部2年）、黒川昌美（経済学部2年）、北見洋樹（文学部2年）、下田順仁（経済学部2年）、柿嶋陽太（法学部2年）、松村芽依（法学部2年）、山崎祐太郎（法学部1年）、山口栞奈（法学部1年）、高島健太（法学部1年）、熱田怜英（法学部1年）、田村紫織（経済学部1年）、中村果南（経済学部1年）、有泉柚紀（商学部1年）、李彬（商学部1年）、曾根隆広（総合政策学部1年）、井戸真絢（総合政策1年）、川島優佳（文学部1年）

### 夏の活動

日時：8月16日～8月24日

参加人数：40人

活動内容：学習指導、フリータイム、ふれあい農園企画（アイスクリーム作り等）、お楽しみ会企画（流し食べ物）

### 冬の活動

日時：12月22日～12月29日

参加人数：31人

活動内容：学習指導、フリータイム、ふれあい農園企画（パン作り等）、クリスマスパーティ企画、お楽しみ会企画（餅つき）、気仙沼市面瀬小学校へのヒアリング

### 春の活動

日時：3月23日～3月30日

参加人数：21人

活動内容：学習指導、フリータイム、ふれあい農園企画（チョコレートフォンデュ）、お楽しみ会企画（白玉作り）、面瀬地区まちづくり協議会主催 地域交流会、気仙沼市面瀬小学校 谷山知宏校長先生との今後の活動方針打ち合わせ

### スタディツアー

日時：6月16日～6月17日

参加人数：17人

目的：現地でのボランティア活動の前に、活動場所である宮城県及び気仙沼市について、歴史や産業など様々な分野の理解を深めることで、地域のおとな、子どもの抱える背景を知り、自分たちの活動の意義や方針について考えたり、捉えなおしたりするきっかけをすること

内容

- ・気仙沼市議会議員今川さんによる気仙沼ツアー
- ・ホテル望洋元社長加藤さんによる震災当時の様子のお話

### 事前調査

日時：7月7日

参加人数：3人

内容

- ・気仙沼市面瀬小学校へのヒアリング
- ・一般社団法人プレーワーカーズの活動見学
- ・認定NPO法人底上げの交流会参加

### 学習会

現地活動中

回数：2回

目的：活動地域に関することや震災時の話をお聞きし活動の質を高めるため

内容

夏活動…一般社団法人プレーワーカーズの遠藤さんによる子どもに関するワークショップ

冬活動…消防士の佐藤さんによる震災当時の様子のお話

現地活動前

回数：3回

目的：活動場所、子ども背景の理解を深めるために、中澤先生にお話を伺いました。

内容

第1回…ボランティア活動と現地のニーズ

第2回…気仙沼の子ども達の進学と職業選択

第3回…気仙沼の震災被害と復興、今後の課題



# 1. 被災地支援ボランティア

## 団体の紹介：チーム女川

**理念：**○住民の声に寄り添い、女川の今を発信する

東日本大震災から3年の歳月が経過し、私たちが活動する宮城県女川町は復興へ向かう途中にあります。時の経過とともに住民のニーズも変化していますが、女川の方々と対話する中で私たちに何ができるのかを常に考え、それを活動に反映させていきたいと考えています。また、物産展の活動を通して東京の人に女川の現状について知ってもらい、少しでも女川の魅力を伝えられればと思います。

○継続的に交流促進の場を設け、住民とともに支え合いの輪を築く

震災後、女川町では過疎化と高齢化が一気に進み、それと同時に震災前の地域コミュニティが崩壊してしまっているという課題があります。私たちがイベントを開催することによってその地区のコミュニティの活性化を図るとともに、住民一人一人に寄り添った活動をしていくことが目標です。

**活動場所：**宮城県牡鹿郡女川町

**代表者：**石山智弥（経済学部2年）

**所属メンバー：**岩立文香（文学部4年）、岩田亮（法学部4年）、日下部真莉（法学部3年）、元田奈緒（法学部3年）、金井脩（法学部3年）、鈴木雄大（法学部4年）、合田みらい（文学部3年）、池谷侑紀（法学部2年）、鄭祐（経済学部2年）、田中泉希（経済学部2年）、新開千聖（総合政策学部1年）、阿部凜太郎（文学部1年）、上口由紀音（法学部1年）、大川圭希（経済学部1年）

### 春の活動（新入生対象被災地スタディーツアー）

6月22日～6月24日 13名（新入生6名）

活動内容：新入生を対象としたスタディーツアーの実施

### 都内での活動

- ・ 8月4日、5日 延べ3名  
場所：四の橋夏まつり 内容：調理、販売の手伝い
- ・ 8月25日、26日 延べ10名  
場所：麻布十番納涼まつり 内容：調理、販売の手伝い
- ・ 10月6日 延べ4名  
場所：みなと区民まつり 内容：調理、販売の手伝い
- ・ 10月7日 7名参加  
場所：中央大学 ホームカミングデイ 内容：女川の商品の販売
- ・ 11月3日、4日 延べ10名  
場所：中央大学 白門祭 内容：女川汁（さんまのすり身汁）の販売
- ・ 2月9日 6名参加  
場所：イオン豊田 内容：女川の商品の販売

### 現地活動

8月7日～9日 9名参加

活動内容：大原南区でのイベント活動、女川北区の事前調査

9月12日～14日 6名参加

活動内容：2地区でのイベント活動、女川北区での戸別訪問、女川についてのスタディ

12月23日～24日 3名参加  
 活動内容：大原南区での戸別訪問活動

2月3日～4日 1名参加  
 活動内容：2地区での春活動に向けた事前調査

2月15日～17日 5名参加  
 活動内容：2地区での戸別訪問・イベント活動、スタディー





## 団体の紹介：チームくまもと

### 理念：

当団体の理念は

1. 「人・地域・暮らしに焦点を当て、全体の中に個の居場所を作る」
2. 「小森の住民の方々のより良い環境作りのキッカケ作り」

の2つになります。

震災によって壊れた、失われたコミュニティは全く元のようにはありません。新たな人が土地に加わり、新たな場所へと移動していく人もいます。近隣の住民もよく知らない状況の中で以前のように暮らしていくというのは難しいことです。私たちチームくまもとは、それぞれの住民が仮設団地や公営住宅において自分の居場所を見つけ、その中で暮らしていくことのできるような環境作りを目指しています。

キッカケは私たちでも復興の主体は住民です。住民の方々が継続的に周りを巻き込みながら今後行っていけるように私たちは考えています。

**活動場所：**熊本県阿蘇郡西原村

**代表者：**藤原凌（経済学部2年）

**所属メンバー：**吉田圭吾（法学部2年）、藤野将希（法学部2年）、横山直輝（法学部2年）、梅澤泰介（文学部2年）、大上文華（文学部2年）、滝澤佑介（経済学部1年）、太田桃子（法学部1年）、甲斐千尋（商学部1年）、木村巨佑（法学部4年）、大谷夏子（文学部4年）、恵良友貴（文学部4年）

### 夏事前活動

日程：6月23日～24日

人数：学生3名

活動内容：支えあいセンターへのヒアリングを行わせていただいた。その他、建設中の河原公営住宅の見学も行った。

### 夏活動

日程：8月23日～26日

人数：学生12名、コーディネーター1名

活動内容：支えあいセンターへのヒアリングを行わせていただいた。

小森仮設団地と河原公営住宅での訪問活動を行い、小森仮設団地では子供たちを対象にしたプール企画も行った。10月の物産展の商品取り扱いについての相談もさせていただいた。

### 冬活動

日程：12月8日～9日

人数：学生7名

活動内容：支えあいセンターへのヒアリングを行わせていただいた。

小森仮設団地と山西公営住宅への訪問活動を行った。

### 春の活動

日程：3月15日～18日

人数：学生7名

活動内容：小森仮設団地にて支えあいセンターへのヒアリングを行わせていただいた。

また訪問活動と仮設団地にあるキックボード場の制作のお手伝いと住民を対象にしたチーズフォンデュ・チョコフォンデュの企画の開催を行った。

## その他の活動

### 新入生勉強会

4月以降、加入したメンバーに対して熊本地震に関してリサーチを行ってもらい、他メンバーに発表してもらう機会を設けた。

### 神戸ツアー

ボランティア元年とも呼ばれる阪神淡路大震災以降において、被災地支援の第一線で活動されてきた方々にお話を伺い、被災地支援を行う上での姿勢や心構えなどを学んだ。

### 物産展

10月に中央大学で行われたホームカミングデーにて西原村の商品を販売し売り上げを募金した。

## 【総括】

2018年度の活動は夏に公営住宅が完成したこともあり、現地での変化に合わせた活動が求められたのではないかと感じる。その中で団体としての話し合いが十分にできていなかったため頭よりも先に行動してしまうことが多くなってしまった。現地で活動するためには何が必要なのかを強く意識させられた一年となった。

住民同士の交流がまだ盛んに行われていない公営住宅では時間の経過を見守っていく必要があると同時に、集会所が友好的に使われていない現状を見てもどかしい気持ちにもなる。公営住宅には西原村外からやってくる方も少なくない。そういった方たちを地域に巻き込みながらお互いのちょうどよい距離を保てるようにするには何が必要なのかを考えていきたい。また仮設団地についても集約の話が出てきているが、まだ再建に時間を要する方もいる。そうした方には特に精神面などの変化に私たちが気をつけながら活動していきたい。

団体としての課題もあるが、現地に向き合いながら団体で協力して活動していきたいと考えている。



# 2. 多摩キャンパス

## 1. 学内ボランティア活動

### (1) 「クリーン大作戦・春の陣」

実施日：5月27日（日）

場所：中央大学多摩キャンパス周辺

参加者：15名（学生12人、中大職員3名）内容：キャンパス周辺のごみ拾い活動

5月27日(日)、クリーン大作戦・春の陣を行った。学生12人、職員3人の合計15人が参加し、晴天のもとゴミ拾いを行った。毎年秋には地域の方々と協働して4年目になるが、今回より春も東中野・谷津入自治会の皆さんと一緒に実施した。

ただ、作業は1時間ほどで終わり、学生からも「もっとゴミ拾いしたかった」「地域の方々ともっと交流したかった」などの声も聞かれ、今後は実施方法に工夫が必要である。

クリーン大作戦終了後、交流会を行い、白門祭実行委員会とgreenbirdのコラボが始まるきっかけになり、学生間交流が活発に行われた。

### (2) 「クリーン大作戦・秋の陣」

実施日：11月25日（日）

場所：中央大学多摩キャンパス周辺

参加者：17名（学生15人、中大職員2名）内容：キャンパス周辺のごみ拾い活動

地元の東中野自治会・谷津入支部の皆さんとの合同開催で、一般学生（4名）に加えて、白門祭実行委員会（3名）、Project Coop(6名)、greenbird（4名）の学生も加わり、4班に分かれて正門から野猿街道の両側の草刈りとゴミ拾いを行った。

学生からは、「ゴミは少ないが、タバコのポイ捨てが多かった」「前回（春の陣）と比べて地元の方々と一緒に作業ができたのが良かった」「初めての参加だったが、地元の方々といろんな人と話ができ楽しかった」などの感想が聞かれ、地元の方からは「みかん」と「お茶」の差し入れがあり、学生たちは喜んでいました。

なお、本学近隣には他の自治会もあるため、今後どのように地域との連携を実施していくかが課題であり、また、一般の学生参加を促す方策が必要である。



### (3) クリーン作戦・ミニッツ ～30分間のゴミ拾い活動～

「クリーン作戦」に参加した学生から、「もっと定期的にゴミ拾い活動をしたい」という声があがり、昼休みの30分間を活用して「クリーン作戦・ミニッツ」を行っています。

	実施日	参加学生数
第1回	4月26日	9名
第2回	6月14日	12名
第3回	7月12日	17名
第4回	12月20日	7名



## 2. 防災ボランティア活動

---

### 団体の紹介：チーム防災

**理念：**「防災を通して、学び合い、活かし合い、自助・共助の力を高め合う」

- ① 顔が見える関係を築き、自助・共助の力を高める。
- ② 学んだことを地域で活かす。

チーム防災は、被災地支援活動していた学生が、被災地で学んだ震災の恐ろしさや悲しみを多摩地域の防災に活かしたいという思いから2015年に結成されました。そのため、現在も半数近くのメンバーが他の被災地支援団体と兼任しています。

現在、日本では首都直下型地震が30年以内に70%の確率で起こると予測されています。その最大被害予想では東日本大震災の死者・行方不明者数を大きく上回るとされています。東日本大震災から8年、熊本地震から3年が経過し、人々の記憶から震災の記憶が薄れつつある今、私たちにできることは、被災地で起きた惨憺たる出来事を二度と繰り返さないように、防災の大切さを伝える活動を継続していくことではないかと考えています。

2018年度は、住民の方々とのみ行っていた防災訓練を、外にも目を向け、医療従事者や日野市役所の方々とも防災訓練を行えたことが収穫です。しかし継続して行っていかなければ意味をなさないため、積極的に声を上げていかなければなりません。

そのために私たちは、①地域防災の活性化、②地域内、学内、そして地域と大学を結ぶ災害時に備えた関係性づくり、③堅苦しいイメージの防災を楽しみながら参加者とともに学ぶ、という3点を心がけて今後も活動していきたいと考えています。

**代表者：**稲泉大地（総合政策学部3年）

**所属メンバー：**阿河祐介（法学部2年）、石山智弥（経済学部2年）、梅森隼（総合政策学部3年）、海老名湧（法学部4年）、小笠原萌（法学部1年）、柿嶋陽太（法学部2年）、佐藤大生（法学部3年）、白須花恵（法学部4年）、田中瑠海（商学部4年）、谷井翔太（経済学部1年）、津久井泉実（法学部2年）、登倉めぐみ（文学部4年）、中田瞬（経済学部3年）、中山尚郁（経済学部3年）、廣瀬愛（法学部1年）、小笠原萌（法学部1年）、廣田大智（経済学部4年）、藤澤史織（法学部1年）、向山碧杜（法学部3年）、水野翔太（経済学部4年）、山本美彩子（法学部2年）

#### ・主な活動

- 4/27(金) つくしんぼ保育園応急救護訓練
- 4/28(土) 拓殖大学トリアージ訓練
- 6/26(火) 附属高校授業
- 7/5(木) 南平高校HUG
- 7/7(土) 防災ゲームday@そなエリア
- 7/20(金) 六小カエルキャラバン
- 7/21(土) 五小祭防災すごろく
- 8/5(日) 日野市防災・減災シンポジウム@実践女子大学
- 8/6～8(月～水) 災害救援ボランティア講座@中大多摩キャンパス
- 8/17,18(金,土) 七生中宿泊防災訓練
- 8/28(火) 帝京小防災ゲーム
- 9/22(土) 平山苑防災訓練&話し合い

- 9/29(土) 救護講座 presented by 日本体育大学救急医療学科@拓殖大学
- 10/19(金) 平山小HUG
- 10/20(土) 滝合小カエルキャラバン
- 10/21(日) 日野市民フェア（防災百人一首・防災すごろく）
- 10/26(金) 附属中授業
- 11/3, 4(土, 日) 白門祭 防災食販売
- 11/25(日) 黄色いハンカチ運動@平山苑
- 12/20(木) HUG@南平高校
- 2/9, 10(土, 日) 多摩六大学合同ボランティア展@豊田イオンモール多摩平
- 2/12(火) 附属高校授業（クロスロード）
- 2/26(火) ひのっちボランティアスタッフ防災研修



## (1) 中央大学附属中学校 チーム防災による授業

10月27日（金）、中央大学附属中学校の1年生5クラスが行う防災訓練において、センターの公認学生団体「チーム防災」12名が防災に関する授業を昨年に引き続き実施した。

チーム防災より東日本大震災被災地などへの関わりを中学生に説明し、また被災地の震災遺構などを例に挙げて、防災意識の大切さを説明した上で、「防災神経衰弱」と「防災百人一首」を行った。チーム防災が開発したばかりの「防災百人一首」は、中学生に好評であり、カードの暗記も一生懸命行っていた。

2018年10月26日(金) 中学1年生 防災訓練実施概要

時間	場所	内容
朝礼	各担任教室	
8:45 - 9:35	各担任教室	チーム防災による活動① (神経衰弱 または カルタ)
9:45 - 10:35	各担任教室	チーム防災による活動② (神経衰弱 または カルタ)
11:00 -	中学校体育館	海防士による講義 防災ヒアオ鑑賞 防災に関する講話

<各クラス担当>  
 1組：野村（総務、全体統括）  
 2組：増田（学年主任）  
 3組：伊藤  
 4組：森脇  
 5組：長谷川



### (2) 中央大学附属高校 授業（教養総合Ⅰ）への学生派遣

6月26日（火）、附属高校の高校2年生13名に対して、授業【教養総合Ⅰ「災害に学ぶ：私たちにできる防災と支援」】に公認学生団体の学生(2名)が講師役として登壇し、高校生とワークも行いながら、ボランティアに関する理解を深めることができた。

高校生・教員からの質問事項

- ・活動をしていて最も良かったと思った瞬間は？
- ・現地のニーズを把握するために気をつけていることは？
- ・チーム内で意見が異なった時に、どうやって解決していったのか？



### (3) 中央大学附属高校 授業（教養総合Ⅰ）における「チーム防災」クロスロード実施報告

2月12日（火）、「チーム防災」の学生3名が講師役・ファシリテーターとして登壇し、高校2年生10名、高校教員2名に対してクロスロードを用いて防災・減災に関するワークを行った。

当日の内容

- ・クロスロードの意味、日頃の防災減災意識を高める必要性に関して解説
- ・クロスロード7問
- ・振り返り・宿題（高校生が自らクロスロードを作問する）の発表

クロスロード：

震災が起きた際に学生、教職員がそれぞれの立場でどのように行動するか、その意思決定した理由を共有するもの。今回はこれまでチーム防災が実施していた「中央大学版クロスロード」を附属高校の周辺地図や避難所一覧などの資料を加えて、附属高校用にアレンジして実施した。

今後について：

授業終了後、担当の高校教員2名とチーム防災の顧問である中村寛樹商学部准教授、学生が懇談を行った。6月時点より高校生の防災意識は向上しており、附属高校で被災した時は東京学芸大学が避難所であることを全生徒が認識しているなど、防災に関して自分自身のことに考えることが出来つつあった。

次年度以降は、高大連携の一環の一つとしてボランティアセンター及び学生団体の方でスケジュールに無理がない場合は学生の意思を尊重しつつ、参加を調整していきたい。



### 3. 地域ボランティア活動

---

#### (1) めぐみ野自然の会

実施日：4月7日、5月5日、9月29日、11月17日、3月16日  
参加者：学生6名  
場所：めぐみ野  
内容：八王子市の緑地全般の保全活動

#### (2) ユギ里山ファーム

実施日：4月14日、4月28日、5月26日、8月25日  
参加者：学生6名  
場所：八王子市・堀之内里山保全地域  
内容：里山保全地域での農作業活動として、地元NPOの活動に参加

#### (3) せせらぎ農園

実施日：4月20日、8月3日、10月8日  
参加者：学生5名  
場所：八王子市・堀之内里山保全地域  
内容：せせらぎ農園での農作業活動として、地元NPOの活動に参加

#### (4) 落川交流センター

実施日：4月29日、5月27日、6月24日、10月28日、11月25日、12月23日、2月24日  
参加者：学生21名  
場所：日野市落川  
内容：地域拠点としての落川交流センターでの地域づくりに参加

#### (5) ひの新選組まつり

実施日：5月12日、13日  
参加者：学生17名  
場所：日野市・高幡不動尊周辺  
内容：第21回ひの新選組まつり運営のお手伝い



## 2. 多摩キャンパス

### (6) まちづくり市民フェア2018

実施日：10月21日（日）

実施場所：日野市市民の森ふれあいホール

参加者数：学生20名、教職員2名

内 容：ホールの1階で被災地活動の展示、2階の集会室で「チーム防災」による子ども向けの防災アトラクション（防災すごろく、防災百人一首）を実施。  
また、子供向けの企画や鯛焼きと野菜の販売を手伝った。

### (7) 大豆プロジェクト

実施日：12月15日

参加者：学生1名

場 所：七ツ塚ファーマーズマーケット（日野市）

内 容：日野市役所産業振興課とNPO法人めぐみと協働プログラムに参加



# 3. 後樂園キャンパス

## 1. りこボラ

### 理念：「理系でも、ボランティアを日常に！」

中央大学理工学部ボランティア団体「りこボラ！」では、後樂園（理工学部）キャンパス内及びキャンパスの位置する文京区を中心に活動しています。

団体の創設背景として、理工系の学生は文系の学生に比べてボランティア活動に関わる機会が少ないことが挙げられます。これは我々中央大学生に限ったことでなく日本の理系学生全般で言われていることであり、その原因は一般に、理工学部では講義や実験による拘束時間が長いことが理由であるとされていました。しかしながら、理工系の学生であっても授業時間以外はアルバイト・サークル等に時間を使っている学生が大半であるのが実情であり、ここに理工系学生への「ボランティアを通じた社会との関わり」及びその機会創出の意義を見出した理工学部生が集まり、「行動する知性」を体現すべくそれぞれの信念と共に活動しています。

活動内容としては、主に次の3つを軸に活動しています。

- ① 学内のボランティア広報活動  
 (例：「ボラカフェ」…ボランティアを実際に経験した人がゲストスピーカーとなり、そこで経験したこと、学んだことを他のボランティア経験者・未経験者たちと共有する「ネットワーク広報（LINE等SNS）」…りこボラ！企画や地域のボランティアについて広報活動を行い、理工系学生のボランティア認知率・参加率を高める 他)
- ② 学内及び他団体、企業、周辺地域とのボランティア企画  
 (例：「来るべき災害時、あなたは動けますか??新型実践防災デイキャンプ?」…大学で実際に災害が起きた時どのように動けばよいのか実践型の防災イベントをNPO法人と協力して行った。  
 「クリーン大作戦！」…大学周辺のゴミ拾いをゲーム形式で行い、清掃活動と共にボランティア活動の堅いイメージを払拭する  
 「理科実験」…理系学生ならではの強みを生かし、文京区の子供たちを対象に理科実験を行う 他)
- ③ ボランティア機会の創出のための地域との連携  
 (交流先例（敬称略 順不同）：「文京区福祉協議会 フミコム」「大洋製薬（株）」他)

2018年度は活動の場を新たに多く開拓することができ、メンバーが様々なボランティアを行うことで、町会や地域の人々と交流を深めることができた。またこのつながりから新たな企画を立てることができた。



### 3. 後楽園キャンパス

運営メンバー名簿 (2018年度)		
氏名	学科	学年・備考
土屋 璃和登	情報工学科	2年・代表
松田 美慧	情報工学科	2年・副代表
黒島 綜一郎	人間総合理工学科	2年・副代表
後藤 百合	人間総合理工学科	3年・監査
友成 陽祐	物理学科	2年・内部班長
山川 翔也	電気電子情報通信工学科	2年・広報班長
中山 栞里	人間総合理工学科	2年・渉外班長
山口 正貴	電気電子情報通信工学科	2年・資金調達運用担当
宮川 誠一郎	電気電子情報通信工学科	2年
塚本 涼太	電気電子情報通信工学科	2年
野口 景斗	電気電子情報通信工学科	2年
荻野 紗瑛子	都市環境学科	2年
宮本 祥佳	都市環境学科	2年
島名 彩乃	都市環境学科	2年
伊波 伸通	応用化学科	2年
住谷 隆士郎	物理学科	2年
森田 有哉	人間総合理工学科	2年
金本 莉穂	人間総合理工学科	2年
菊地 優吾	電気電子情報通信工学科	1年
清水 朝陽	情報工学科	1年
瀬尾 茉理	精密機械工学科	1年
米山 遼太郎	精密機械工学科	1年
宇賀治 海人	物理学科	1年
池田 明日香	電気電子情報通信工学科	1年
須藤 裕功	物理学科	1年
小松澤 勢太	人間総合理工学科	1年
荒井 智史	経営システム工学科	1年
小泉 文佳	人間総合理工学科	1年
鈴木 大雅	物理学科	1年

## 2. 学内ボランティア活動

### (1) 花花花見

実施日：4月6日

場所：播磨坂さくら並木（協力：播磨坂さくらまつり実行委員会）

参加者：59名

内容：公園でのゴミ拾い、花見

## (2) 防災ゲーム体験会

実施日：4月18日 4、5限  
 場所：後楽園キャンパス 会議室A.B.C  
 参加者：15名  
 内容：防災ゲーム「シャッフル」「クロスロード～文京の街～」

## (3) ボラカフェ@後楽園

「ボランティアや社会課題について気軽に話せる場所・時間・仲間づくり」を目的に、2015年度から多摩キャンパスで行われている『ボラカフェ』。後楽園キャンパスでは「りこボラ！」が様々なテーマで実施した。場所はいずれも3号館会議室。

- |                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| ■日 時：5月23日（水）昼休み  | スピーカー：小田原未依さん            |
| テーマ：難民キャンプの体験談    | 参加者：23名                  |
| ■日 時：6月19日（火）昼休み  | スピーカー：白尾陸さん              |
| テーマ：教育            | 参加者：23名                  |
| ■日 時：7月10日（火）昼休み  | スピーカー：金山さん（RUN伴）、住谷隆士郎さん |
| テーマ：福祉系・RUN伴      | 参加者：18名                  |
| ■日 時：10月26日（金）昼休み | スピーカー：友成陽祐さん、荒井智史さん      |
| テーマ：お祭り・地域        | 参加者：13名                  |
| ■日 時：12月19日（水）昼休み | 参加者：10名                  |
| テーマ：ボランティア相談室     |                          |



### 3. 後樂園キャンパス

#### (4) 平成30年7月西日本豪雨災害 募金活動

実施日：7月18日、19日 12:10～13:00  
場 所：後樂園キャンパス3号館・6号館1階  
参加者：28名  
内 容：平成30年7月西日本豪雨災害への募金活動

#### (5) 理工白門祭

実施日：11月2日～4日  
場 所：後樂園キャンパス 5133教室（展示）、6号館前（屋台）  
参加者：6名  
内 容：①活動展示（りこボラ！3年の歴史）  
②屋台（チョコバナナ）



#### (6) 新型実践防災デイキャンプ

実施日：1月15日 13時～17時  
場 所：後樂園キャンパス5号館1F  
参加者：29名（学生13名、職員5名、教員1名、地域3名、その他7名）  
内 容：ERT体験型実践訓練（要救助者をどのように優先順位をつけるかのトリアージ、災害心理を疑似体験）  
協 力：特定非営利活動法人 エヌ・セルフディフェンスラボラトリー



## 3. 地域ボランティア

---

### (1) わんぱく相撲

実施日：4月29日  
場 所：文京区総合体育館  
参加者：15名  
内 容：第42回わんぱく相撲文京区大会の運営手伝い

### (2) 山手線一周ゴミ拾い

実施日：5月3日(木)  
場 所：山手線周辺  
参加者：23名  
内 容：新宿スタート、池袋方面へ歩いてゴミ拾いながら大塚まで実施。

### (3) クリーン大作戦

実施日：6月16日  
場 所：後楽園キャンパス周辺  
参加者：19名  
内 容：大学周辺の道でゴミ拾いを行う

### (4) 文京区関水町会おまつり

実施日：9月9日  
場 所：文京区民センター  
参加者：3名  
内 容：文京区学生ボランティア協議会（中央大、跡見学園女子大、東洋大、拓殖大、東洋学園大）の「りこボラ」ブースで「災害」をテーマに防災カードゲーム「シャッフル」を実施した。

# 4. 西日本豪雨災害被災地での活動報告と今後の課題

## (1) 活動支援

2018年（平成30年）6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨である「平成30年7月豪雨災害」へのボランティア活動については、中央大学としては交通費および宿泊費の補助を行うこととし、7月30日にホームページ等で公表した。

補助を受けるにあたっては、8月4日（土）15時より多摩キャンパスで実施する「災害ボランティアの心構え」講座に出席することを条件としたが、出席できない場合は、ボランティアセンター窓口にてオリエンテーションを受けることで代替できるようにした。

8月・9月の間は学員会の補助を受けて30名の学生が豪雨水害被災地（34か所）でのボランティア活動を行った（補助総額243,130円）。その後、10月9日の報告会等の企画を通して「また冬・春にも豪雨水害被災地で活動したい」という学生の声があり、11/21および11/27に学生とコーディネーターで冬春活動の検討会を行った。

## (2) 真備支援活動

夏に広島・岡山等の豪雨水害被災地でボランティア活動を行った中央大学生から「また冬・春にも豪雨水害被災地で活動したい」という声が上がリ、学生が自主的に継続活動する「チーム」に発展する可能性があるため、それを支援すべくボランティアセンターとして岡山県倉敷市真備町において、冬活動を実施した。

なお、倉敷市真備町を支援対象としたのは、以下の2つの理由による。

- ・ その時点でまだ災害ボランティアセンターが運営されていたこと
  - ・ 私たちと同じタイミングで、故・黒田裕子さんが創設したNPO法人・災害看護支援機構が仮設住宅支援を真備町で検討しているらしく、協力して活動できる見込みがあったこと
- 冬活動中に倉敷市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターや仮設住宅住民と打ち合わせの結果、真備町において継続的な仮設住宅支援のニーズがあることが分ったため、春（2～3月）にも活動を企画し、以下のように実施した。

### <12月活動>

- ・ 日程：12月26日（水）～28日（金）（2泊3日）
- ・ 人数：学生2人＋コーディネーター1人
- ・ 内容：家屋の泥出し、岡田仮設住宅で支援活動（しめ縄づくり）、社会福祉協議会と打ち合わせ
- ・ 協力：NPO法人災害看護支援機構



## &lt;1月活動&gt;

- ・日程：1月12日（土）～15日（火）（3泊4日）
- ・人数：学生6人＋コーディネータ1人
- ・内容：家屋の泥出し、真備総合公園仮設で支援活動（足湯と折り紙）、みその仮設で戸別訪問、社会福祉協議会と打ち合わせ



## &lt;2月活動&gt;

- ・日程：2月11日（土）～12日（日）（1泊2日）
- ・人数：学生2人＋コーディネータ1人
- ・内容：みその仮設住宅で支援活動（手巻き寿司とケーキづくり）
- ・協力：NPO法人災害看護支援機構



## &lt;3月活動①&gt;

- ・日程：3月4日（月）～6日（水）（2泊3日）
- ・人数：学生8人＋コーディネータ1人
- ・内容：真備総合公園仮設でお茶会、足湯、折り紙、たこ焼き。市場仮設でたこ焼き、社会福祉協議会と打ち合わせ





## 4. 西日本豪雨災害被災地での活動報告と今後の課題

### <3月活動②>

- ・日程：3月25日（月）～27日（水）（2泊3日）
- ・人数：学生3人＋コーディネータ2人
- ・内容：岡田仮設、みその仮設で支援活動（たこ焼き）、真備総合公園仮設、市場仮設で打ち合わせ、社会福祉協議会と打ち合わせ
- ・協力：NPO法人災害看護支援機構



### <成果>

真備における仮設住宅の状況がある程度は把握できた。生活支援コーディネーターの山本様をはじめ、支援者や住民との信頼関係も深めることができた。

### (3) 今後の課題

- ・現状、真備では仮設住宅に暮らす方よりも、みなし住宅で生活をするの方が圧倒的に多いが、ボランティアや支援の手は仮設住宅に集中する傾向にあり、みなし仮設で暮らす方や家の被害を免れた方の情報は、行政も全て把握しておらず、今後の支援に関しても課題が多いと感じた。
- ・「食」を通じた交流の場を提供することで、多くの人が集まるきっかけ作りとなったが、現地の方々をその場に留まらせることや、交流の場を作るにはまだ不十分であり、今後は住民同士の交流を促す方策が必要だと感じた。まずは食べ物に関する催し物をして定期的に参加する住民さんを増やし、そこから「中央大学の学生が何かやっているらしい」という話題性を作り、人が集まるようになるのと併せ、戸別訪問では住民さんが消極的であっても、私たち側から話しかけて信頼関係を作っていく必要性を感じた。
- ・今回の活動において、4つの仮設住宅を訪問し、イベントを行った。同じ企画内容であっても、仮設住宅の方々の反応が異なっていたため、土地や現地の方々に応じた個別的な視点を踏まえた企画を作り、丁寧な活動を行う必要があると感じた。
- ・心的な支援が出来るのは、学生ならではの強みである。学生が被災者を訪問する非日常を提供し、ふと被災者自身が普段を振り返る場を作ることで、被災者の心の変化に気づけるようになるといった心のケアを継続して行っていきたい。

## 5. 学内募金活動

災害に見舞われた地域への温かい支援を行うために、ボランティアセンター（多摩キャンパス学生課）と、理工学部学生生活課（後楽園キャンパス）の各窓口で募金箱を設置した。

なお、公認学生団体の学生が主体的に募金箱をもって募金の呼び掛けを行った。集まった募金は次のとおり全額を支援団体に寄付した。

### （1）平成30年7月豪雨災害

（受付期間）7月11日（水）～8月6日（月）

（送金先）社会福祉法人中央共同募金会

（募金額）117,792円（多摩キャンパス分：68,544円・後楽園キャンパス分：49,248円）

### （2）平成30年北海道胆振東部地震

（受付期間）9月27日（木）～10月29日（月）

（送金先）社会福祉法人北海道共同募金会

（募金額）12,554円（多摩キャンパス分：8,501円・後楽園キャンパス分：4,053円）



# 6. 学内での活動報告事業

## 1. ボランティアウィーク

---

10月5日～12日を「ボランティアウィーク」とし、多摩キャンパスにて写真展、物産展、報告会を行った。

### (1) ボランティア活動写真展

日程：10月5日（金）～12日（金）

場所：多摩キャンパス中央図書館1階

内容：卒業生に加え、ボランティア学生の父母の方など学内外からたくさんの方にお越しいただいた。

### (2) ホームカミングデー（物産展）

日程：10月7日（日）

場所：多摩キャンパス

内容：約200名の学員（卒業生）の皆様に、写真を通して一生懸命活動をする学生の姿をご覧いただいた。当日実施した物産展では、はまぎくのつぼみ・チーム女川・チームくまもとの3団体が物産展を行い、完売した。

<アンケートより一部抜粋>

- ・社会に貢献する中々らしい取り組み内容であった。このような素晴らしい取り組みを、もっと中大はPRすれば良いのに…
- ・継続的に各地で中大生が地域の人たちのために活動していることを知って嬉しかった。
- ・各団体、わかりやすく展示されていて良かった。学生さんたちの心が伝わってきた。
- ・中大生は地味だけど、とても有能で真面目な学生が多いと思う。自信を持って頑張してほしい。大学はもっとバックアップを！
- ・災害が増える中、活動は大変かと思うけど、人でしかできない心のケアなど、頑張してほしい。暑さ・寒さ等、過酷な場所もあると思うが、体調に気を付けて頑張してほしい。



### (3) ボランティア活動報告会

10月9日から11日の3日間、公認学生ボランティア団体と「平成30年7月豪雨災害」被災地でのボランティア活動に参加した学生による活動報告会を、中央図書館4階プレゼンホールで実施し、延べ80名近くの学生・教職員が来場した。

■10月9日 平成30年7月豪雨災害ボランティア活動報告

浜口晃希（法1）、藤田雄大（法4）、長崎直人（法4）、鈴木美由紀（総政3）

■10月10日 公認学生団体活動報告（1）

「はまぎくのつぼみ」石田友也（文2）、新井達也（法2）、利根川和希（法2）、楠田安紀子（法2）

「はまらいんや」中富一杜（法2）、島袋桜（文1）

「面瀬学習支援」梅森隼（総政3）、大木悠莉（経済1）

■10月11日 公認学生団体活動報告（2）

「チーム女川」石山智弥（経済2）、新開千聖（総政1）、上口由紀音（法1）

「チームくまもと」吉田圭吾（法2）、藤野将希（法2）、太田桃子（法1）

「チーム防災」稲泉大地（総政3）、藤澤史織（法1）、廣瀬愛（法1）、谷井翔太（経済1）、小笠原萌（法1）



<参加者アンケートから>

- ・学生同士の積極的なコミュニケーション、事務局また多摩エリア6大学のリーダーとして、今後の活躍を期待している（社会人）
- ・「微力ではあるが無力ではない」という言葉が印象的だった。実際に現地に行けなくても、気にかけていきたいという話もあったが、私も被災者なので、とても嬉しかった。私たちを忘れないでほしい（法学部2年）
- ・中央大学で、もっとこういうボランティアの報告会の場を作りたいと思った（経済学部3年）

### 2. キャンパスライフ体験会（父母連絡会）

11月3日（土）、父母連絡会主催によるキャンパスライフ体験会が開催され、「ボランティア学生の体験発表会 ～私たちがボランティアを通して学んだこと～」と題し、公認学生団体のメンバー4人の活動発表ののち、中澤ボランティアセンター長とパネルディスカッションを行った。ボランティア活動を支援いただいている保護者への報告及びご理解をいただく貴重な機会として、また発表の場の設定により学生たちの内省力を向上させる教育的な目的がある。

場所：1号館4F 1406号室 父母・一般参加者数：36名

登壇者：はまぎくのつぼみ（岩手県宮古市） 山本高大（文学部2年）

・面瀬学習支援（宮城県気仙沼市） 黒川昌美（経済学部2年）

・チーム女川（宮城県女川町） 合田みらい（文学部3年）

・チームくまもと（熊本県西原村） 藤原凌（経済学部2年）

<アンケートより一部抜粋>

- ・学生らしく、一步一步成長、理解しながら社会に役立っていかこうとする姿勢が良かった
- ・たぶん運営面でも色々苦勞があると思う。自分の経験から学び取る力があるというのは素晴らしいこと。「あ～大変だった」で終わらないところが良い。スライドもうまく使って、心に残る発表だった。
- ・何をしてあげるのではなく、そういう「活動の場を与えてもらっている」という言葉が印象に残った。押し付けではなく、寄り添う事、この先も継続してほしい。
- ・各学生の頑張りが、中大の評価に直結している。いつも感謝、応援している。失敗しても良いからどんどん調整してほしい。若者らしく！
- ・体験して自分が変化したことが具体的に語られていた。教授の細かい補足、発表者への掘り下げた質問等により、より一層理解が深まった。



### 3. 後楽園ボランティアシンポジウム

実施日：2月3日（日）

場 所：後楽園キャンパス3号館1階

参加者：47名

2016年から学生が立ち上げ、今はボランティアセンター公認学生団体となった「りこボラ！」の3年間の歩みと学生の姿を2部構成にて報告する「第1回 後楽園ボランティアシンポジウム」を実施した。

第1部では、学内外で活躍し学びを深める4名の学生の活動報告と、その中での葛藤や成長を対談形式で展開し、その後は教職員2名と地域の方、学生2名を交えてのパネルディスカッションを行い、続く第2部では、様々なボランティア活動に参加した7名の学生が、ポスターとともに報告するポスターセッションを行った後、参加者との懇親を深めた。



### 4. ボランティアセンターシンポジウム

---

実施日：2月5日（火）15時～17時

場 所：多摩キャンパス Cスクエア 小ホール

参加者：96名

ボランティアセンターシンポジウムを実施した。今回のシンポジウムの副題は「私たちが繋ぐ中大ボラセン魂〔スピリット〕」。

先輩から後輩へ思いを伝えるということもテーマの一つとなっており、企画・準備は4年生が主体となって行った。学生、教職員、地域の方々にご参加いただいた。

<第一部>

『はまらいんや』が2019年3月に活動を終息することになったことから、決断するに至るまでを団体に所属する4年生が話した。『はまらいんや』の考え方に強く影響を与えた故・黒田裕子さんの言葉を交えながら、熱い思いを語った。

<第二部>

中澤秀雄センター長をファシリテーターに迎え、被災地支援団体のそれぞれの現状と活動する意義について討論。現場の変化と活動に対する向き合い方について、登壇した4年生が白熱した議論を繰り広げた。

<第三部>

各団体の代表が登壇し、先輩とクロストーク。半年にわたってヒアリングを重ねてきた。

- ・ 代表の責任と活動に向き合うことの両立
- ・ 活動を継続するために行ってきた情報共有と後輩の育成
- ・ 皆の意見を吸収し巻き込むという理想の代表像

現代表たちの素直な想いを先輩たちが引き出していった。



# 7. 学外での活動報告事業

## (1) 防災ゲームDay2018

実施日：7月7日

場 所：「そなエリア東京」2階レクチャールーム

参加者：チーム防災 6名、りこボラ！ 11名



内 容：災害パペット劇場、防災神経衰弱

## (2) Gakuvoシンポジウム

実施日：2月11日～12日

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

参加者：7名

内 容：スタディーツアーの報告及び気仙沼、宮古での活動報告



### (3) 第5回大学生ボランティア活動報告会&イベント

被災地と多摩地域の架け橋～大学生はなぜ、被災地に通いつけるのか？

東日本大震災日である3月11日の約1か月前、イオンモール多摩平の森（JR豊田駅北口）にて、多摩地区5大学（中央、明星、法政、首都大学東京、実践女子）と日野市社会福祉協議会、日野市役所の協働（ボラネット多摩）で、被災地支援と地域防災のイベントを行った。

近隣大学と協力して行うことで、学生同士の交流が進み、学生の人間的視野が広がることや学生の活動が活発化すること、また、集客やマスメディアの注目を集めることも狙った。

実施にあたり、イオンモールから多大な協力をいただき、会場および設備は無償で貸していただいている。地域と学生が直接触れ合うことで、学生が地域のニーズに気付き考えが深まることや地域が等身大の学生を知り、地域での学生のボランティア活動が円滑に進むことにもつながった。

(1) 実施期間 2月6日（水）～10日（日）5日間

(2) 会場 イオンモール多摩平の森（JR豊田駅北口）

(3) 内容

- ・パネル展示 期間中開催
- ・イベント（9、10日のみ）
  - ①2月9日（土）11時～15時
    - ・防災ワークショップ（防災すごろく、防災百人一首、カエルキャラバン）
    - ・アロマキャンドル作り
    - ・東北（はまぎくのつぼみ・チーム女川）・熊本（チームくまもと）物産展
    - ・スタンプラリー
  - ②2月10日（日）13時～15時
    - ・PR動画上映会「私たちが被災地に通いつける理由」
    - ・トークセッション

(4) 来場者数 570名（スタンプラリー200名、イオンホールイベント165名、物産展100名、報告会105名）、参加大学生数 延べ70名 合計640名

(5) 感想

<来場者>

- ・各大学の取り組みが見られ、また現地ともLIVE中継を結び、それぞれの立場での思いが伝わって良かった。
- ・「継続は力なり」「学び、学び合う」ことが大切だと思います。これからも頑張って活動してください。
- ・被災地での大変さを改めて感じました。いいイベントでした。
- ・イベントの企画がよく作られていて、2時間が有意義であった。

<学生スタッフ>

- ・悪天候だったが予想以上に多くの方が足を止めて商品を見てくれた。小さなお子さんもたくさん来てくれて、個人としてもとてもうれしく楽しい一日になりました。
- ・来年はもう少しイオンの中心の場所でできたらよい。
- ・想像以上に興味を示して下さる方々が多くいたので驚いた。
- ・悪天候にも関わらず商品の売れ行きがよく、もっと沢山発注すればよかったと思った。
- ・受付では、スタンプラリーという言葉に子どもたちが興味をもってくれたと感じた。

(6) メディア掲載

- ・ 1月22日 J-WAVE JAM THE WORLD HEART TO HEART
- ・ 2月1日 朝日新聞「被災地ボランティア 多摩の学生ら報告へ」
- ・ 2月2日 東京新聞「Campus Information」

6. 参加者の感想

<来場者>

- ・ 継続することがとても大事だと思います。社会人になっても継続的な活動をお願いいたします。
- ・ それぞれの方の「想い」「熱量」のリアルさを感じました。大変刺激になりました。
- ・ 学生が自主的にボランティアをし、結果を出している点に、とても尊敬の気持ちを持ちました。
- ・ 各学校頑張っていることを、初めて知りました。このような素晴らしい姿や東北の様子を、関係者だけでなく、通行人も立ち止まって発表の様子を見ることができないものかと思いました。ボランティア活動ありがとうございます。

<学生スタッフ>

- ・ 来て下さった人がこちらの説明をしっかりと聞いてくれたことがとても嬉しかった。ただ販売するだけでなく、それがどのような物なのかを意識して伝えることが大切だと感じた。
- ・ 毎年続けていくことで支援の輪も広がるし、風化も防げると感じた。
- ・ 幅広い年齢層の方がスタンプラリーに参加してくださっていた。パネルを熱心に見て下さる方もいて、やりがいを感じた。



# 8. 入門

## 1. ボランティア講座

---

【多摩】

### (1) 公務員になりたい人のためのボランティア講座

日時：6月1日（金）18:15～19:45

場所：5202教室

講師：

- ・きりんゼミ主宰・滝井元視氏
- ・日野市地域協働課・渡辺あゆみ氏
- ・日野市ボランティア・センター・宮崎雅也氏

#### <アンケートからいくつか紹介>

- ・様々な方々からのお話が聞け、大変良かった。また、公務員として必要なボランティア精神がわかり、自分の中でも意識が変わった。
- ・リアルな話が聞けた。「自分から動くのは大事」と言われ続けたが、初めて自分の意志で、実感として生まれた。モチベーションが上がった。
- ・普通に生活していたら分からないことを知ることができた。やはり地域に密着した仕事は良いなと思った。
- ・ボランティア活動は、公務員が考えるべき地域課題を自分で考えられる機会にもなるということに気付いた。



### (2) 地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー

6月9日（土）と6月24日（日）、「公務員になりたい人のためのボランティア講座」に参加した人の中から希望者を選び、「地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー」を開催した。参加者はそれぞれ10人ずつの計20人。

当日は、日野市役所から地域協働課、日野市ボランティア・センターが一日中付き合ってくださり、地域づくりのリーダーさん達から話を伺う有意義な時間となった。

<アンケートより>

地域の方と同じ目線に立つという言葉をよく聞かすが、今日の活動を通して、どういうことか

少し理解できた気がした。同じ活動を少しでも共にさせていただけることで、その場でしか聞くことができない意見や不問を得られた。それを知っているだけで、将来公務員になった時に心持が違う気がした。



### (3) ボランティア体験×学び 振り返りワークショップ

実施日：9月23日（日）13:00～17:00

場 所：多摩キャンパス・1406号室

参加者：学生45名、先生5名、職員3名

内 容：ボランティア活動の振り返り

具体的な活動のエピソードを5～6人一組となって体験を話すことにより、自身の体験を深め、他者の活動を疑似体験し、自分自身の活動をより良いものにしていくために行った。

#### 〈講座の様子〉



## (4) ボラカフェ

実施日：10月25日（木）

会 場：多摩キャンパス・グループカウンセリングルーム

参加者：12人

内 容：お昼休みにボランティアについて気軽に話せる場としてのボラカフェ。2018年度は1回のみの実施となった。テーマは「まちづくり×多世代交流に携わって得たものは…」と題し、地域ボランティアに関しての発表を学生2人が行った。



**ボラカフェ**

まちづくり×多世代交流に携わって得たものは・・・

10/25 Thu

いろいろなテーマについて、学生の聲からの思いを聴き、聞き、いろいろなことを感じてもらいたい。と思い企画しているボラカフェ。  
今回のテーマは、まちづくりの拠点『産川交流センター』で活動している学生スタッフの2人が、まちづくりについて話してくれます。

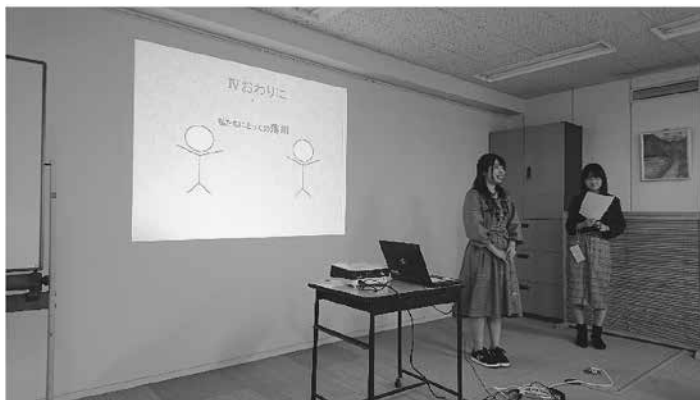
★日時：10月25日（木） お昼休み（12:40～13:10）  
★場所：グループカウンセリングルーム（高学部5号館B1・相談室棟）  
★テーマ：『まちづくり×多世代交流に携わって得たものは・・・』

presented by  
高橋菜さん（法・4年 講師先は地方公務員）  
中村美希さん（法・3年）

ランチ持込OK！

申込はメールにて  
件名：【ボラカフェ10/25】 本文：1.氏名 2.学籍番号  
3.メールアドレス これらの内容を下記まで送信して下さい。  
cha\_volunteer@mail.cdu.ac.jp（中央大学V.C）

＜問い合わせ＞ 中央大学ボランティアセンター TEL:042-674-3487



## (5) ボランティア・フェア

実施日：12月10日（月）・12日（水）

（体験発表12:40～13:20、参加団体ブース出展・説明13:20～16:00）

場 所：グループカウンセリングルーム（5号館地下1階）

参加者：18名

内 容：冬・春季休暇が近づき、問い合わせも増えてくる12月に、学生体験談発表&NPOブース出展を組み合わせた「ボランティア・フェア」を初めて開催した。



## (6) 春休み、一步踏み出したいアナタのためのボランティアセッション

実施日：2月2日（土）13:00～15:00

場 所：3256号室

参加者：4名（3年生2名、2年生1名、1年生1名）

内 容：春休み中にボランティア活動に参加することを検討している学生を対象として「ボランティアセッション」を行った。すでに活発に活動している学生5人に話をしてもらい、その後、「地域（チーム防災、落川交流センター）」、「被災地（チーム女川、真備町）」、「国際」の3グループに分かれて、さらに質疑応答などを行った。

### 〈参加者感想〉

- ・ぼんやりとしか頭になかったボランティアのイメージが、しっかり具体化できた。ボランティアを通じて、何が得られるかということも知ることができボランティアへの意欲もわいた。
- ・海外ボランティアの話（例えば語学力がなくても伝えようとする気持ちがあれば伝わるなど）は他のボランティアにも通じることだと思った。
- ・内容がとても良かったので、平日に開催して多くの人に聞いて欲しい。



## (7) 文学部ボランティア論

実施日：4月～7月の全14回

場 所：多摩キャンパス 3351号室

参加者：履修者は35名、その他聴講者多数

内 容：現代社会においては、さまざまなボランティア活動が展開されており、ボランティアの貢献無しには成り立たない社会活動も少なくない。この科目は、社会におけるボランティアの役割などについて総論的な講義を行うと共に、さまざまな現場でボランティア活動に従事しているボランティアリーダーやボランティアと協働しながら社会活動を展開しているNPO関係者などを講師に招き、各現場で求められるボランティア活動の内容について具体的に紹介し、学生がボランティア活動に関与する契機となるような授業を行う。

	日程	内容
第1講	4月16日	ボランティアとは何か
第2講	4月23日	第1講の復習、ボランティアが人と向き合うということ
第3講	5月07日	まちづくりと環境 NPO法人フュージョン長池 理事長・田所喬氏
第4講	5月14日	児童養護施設に暮らす子どもの学習支援 こどものうち八栄寮 職員・石田浩二氏
第5講	5月21日	障がい者福祉 社会福祉法人夢ふうせん 施設長・浅野大輔氏
第6講	5月28日	生ごみを活用したコミュニティーガーデン せせらぎ農園 代表・佐藤美千代氏
第7講	6月04日	国内での外国籍者支援 NPO法人多文化共生センター東京 代表理事・栢木典子氏
第8講	6月11日	ワークショップ（どのフィールドを選ぶのか言語化）
第9講	6月18日	国際ボランティア NPO法人NICE 開澤真一郎氏
第10講	6月25日	被災地における子ども支援 気仙沼の場合 一般社団法人プレーワーカーズ事務局長・理事 神林俊一氏
第11講	7月02日	震災におけるボランティア 神戸の経験から 被災地NGO協働センター 顧問・村井雅清氏
第12講	7月09日	実習のふりかえり①～社会編
第13講	7月16日	実習のふりかえり②～個人編
第14講	7月23日	まとめ 市民社会におけるボランティアとNPO

**【後楽園】**

**(1) 理工学部新入生ガイダンス**

実施日：4月6日（金） ①13時～14時、②15時～16時

場 所：後楽園キャンパス 5233教室

参加者：①22名、②30名

内 容：ボランティアセンターの紹介、ボランティア経験者の体験談



**(2) 聞かなきゃ損するボランティア入門講座**

実施日：6月25日（月）・26日（火）

場 所：5333教室

参加者：25日59名、26日52名

内 容：ボランティアセンターの紹介、ボランティア経験者の体験談





### (3) ボランティア体験×学び 振り返りワークショップ

実施日：9月29日（土）13:00～17:00

場 所：後楽園キャンパス・5133教室

参加者：学生12名、職員1名

内 容：ボランティア活動の振り返り

りこボラ！の学生は、地域活動から東北支援活動など、幅広く多岐にわたる活動を個々で行っているため、また多摩キャンパスで行う振り返りとは違い様々な体験を共有できる時間となった。



### (4) 理工学部 後期オリエンテーション

実施日：10月8日 1限9:00～10:30

場 所：後楽園キャンパス5235教室

参加者：1年生14名、りこボラ！メンバー7名、教職員2名

内 容：「ボランティアやりたいけど、やり方がわからない人集合！」

1. 大学生とボランティア
2. ボランティアってそもそも何??
3. オリンピックボランティアを考えよう!
4. 質問受付



# 9. スキルアップ編

## 1. 「傾聴講座」

---

学生相談課と学生課の共同開催で傾聴のスキルアップを目的として実施した。  
前半は講義で傾聴の基本姿勢を学び、後半は3人1組で聞き手、話し手、オブザーバーの3  
役を割り振っての「ロールプレイ」に取り組んで、傾聴スキルアップに取り組んだ。

日 時 7月14日(土) 13:00~15:30

場 所 1406号室

参加者 計67人(ランティア公認学生団体所属学生47人、一般募集学生16人、職員4人)

講 師 竹部友子氏(学生相談室カウンセラー・臨床心理士)

### <学生の感想>

- ・日常生活において、重要なコミュニケーションの中でも、「聴くこと」というのはとても重要だと思うので、そのコツを聴くことができ、とても有意義な時間になったと思う。これから相槌や聴く姿勢、伝え返しなどを意識して会話してみたいと思った。
- ・傾聴のために大切な姿勢というところで「自分は今、聴けているだろうか?どう思われているだろうか?」よりも、理解しようという気持ちを持つということや、体験していないから分からない/分かるではなく「分かってほしい」と思うことが大事ということが印象に残った。
- ・ワーク主体の講義のため、非常に実践的だった。傾聴の心構えを深く知ることができた。



### 2. 代替わりワークショップ

---

1年生が次の代表を担うにあたり、公認学生団体全体で団体運営や代表・副代表等の役員の仕事や役員以外のメンバーの役割について考えるワークショップを開催してほしいとの要望があり、3回の「代替わりワークショップ」を実施した。

<対 象>公認学生団体の1年生（2年生以上も参加可能）

<概 要>3回実施し、どの回もお昼休みの時間に2年生以上のスピーカー3名（公認学生団体の役員経験者等）が話をし、その後3限目に残れる人でグループワークを行い、スピーカーへの質問や1年生同士でディスカッションを行った。

■第1回 日 時：12月14日 12:40～14:50  
場 所：5501教室  
参加者：13名

■第2回 日 時：12月17日 12:40～14:50  
場 所：5202教室  
参加者：12名

■第3回 日 時：12月18日 12:40～14:50  
場 所：5202教室  
参加者：15名



### 3. 神戸スタディツアー

3月7-8日、公認学生団体の代替わり（引継）を主な目的として、阪神淡路大震災の教訓を学ぶ「神戸スタディツアー」を実施した。今回で4年目の開催となり、学生13名と教職員2名が参加した。東北や熊本で活動してきた学生たちが、自らの復興支援活動を、神戸からの時間軸のなかで捉え直すことで、今後の活動の展望を見つめることができた。

<参加者> 15名（学生13名、引率2名） ※学生は次年度の代表・副代表など

<行程表>

3月7日	<p>午前：<b>村井雅清さん・被災地NGO協働センター顧問</b>のお話を聞く          午後：<b>宮定章さん・認定NPO法人まち・コミュニケーション代表理事</b>のお話を聞く          ＊読売新聞神戸支局より取材を受け掲載された（2019年3月8日）。その後、神戸の震災遺構を見学、（宿泊）ひょうご共済会館</p>
3月8日	<p>午前：<b>宇都幸子さん・阪神高齢者・障がい者支援ネットワーク代表</b>のお話を聞く          大池東住宅のお茶会に参加          午後：人と防災未来センター、振り返りミーティング          解散</p>



# 10. 防災・災害

## 1. 災害ボランティアの心構え講座

---

平成30年7月西日本豪雨災害により被災を受けた現地での活動を行いたいとの学生からの要望もあり、事前の準備、現地での心構えに関して講座を開催した。

日 時：8月4日（土） 15:00 ～ 17:00

会 場：多摩キャンパス学生課横会議室（6号館B1）

参加人数：15名

講 師：宮崎 賢哉 氏（災害支援・防災教育コーディネーター）

内 容：レクチャーおよびワークショップ

参加者の声（アンケートより抜粋）：

- ・「災害はひとつでも被災は人の数だけある」という言葉が印象に残った。それぞれの人の気持ちや立場を考えて行動することが重要だと感じた。また活動するにあたってトイレの場所や距離などを初めに把握することが重要だという視点は話を伺うまでは自分になかったので、学びになった（法学部3年）。
- ・広島出身で、被害の状況には心を痛めていたところでしたが、「被災者のために」やるということを知ることができて、有意義でありました（法学部1年）。
- ・心に残ったのは被災地での状況を模したクロスロードで、答えがないものを判断していかなければならない大変さを改めて感じた（理工学部2年）。

## 2. 災害救援ボランティア講座

日 程：8月6日（月）、7日（火）、8日（水）

場 所：多摩キャンパスCスクエア中ホール 7日（火）午後、立川防災館

参加人数：41名（前年度比+22名）

内 容：8月6日（月）終日：上級救命技能講習

8月7日（火）午前：講義 出火防止と初期消火、災害救援ボランティアの基本  
午後：立川防災館での災害疑似体験

8月8日（水）午前：演習 災害時のリーダーシップとチームビルディング、  
講義 被災地でのコミュニケーション

午後：講義 災害と防災対策の基本

\* 8日午後は台風接近のため講義を中止とし、レポートで代替とした

参加者の声（アンケートより抜粋）：

- ・ AEDの使用を初めて学んだ。使い方を知っているのと知らないのでは、有事の際に大きな違いが出てくるので、とても良い経験をした。
- ・ 救命技能の技術だけでなく「自助・共助」の必要性を強く感じた。首都直下型地震に対して、今から備えていけることはやっていきたい。
- ・ 応急措置の方法など普段体験できないものが多くあり、自分の知識として知ることができた。



# 11. 表彰

## (1) 中央大学学員会会長賞

学員会会長賞

森 春菜（法学部4年）、木村亘佑（法学部4年）

学員会会長奨励賞

向山碧杜（法学部3年）、梅森 隼（総合政策学部3年）、稲泉大地（総合政策学部3）

## (2) 信濃育英会

団体：面瀬学習支援

個人：木村亘佑（法学部4年・はまらいんや／チームくまもと）

## (3) 平成30年度「ぼうさい甲子園」

だいじょうぶ賞（チーム防災）



# 12. ボランティアセンター 利用集計

## ボランティアセンター相談者統計 (人)

↓ (含、右記のML回答分。[震災] 数は、学生団体来室者数を含む)

月	相談者	男	女	法	経	商	文	総	理	不	1	2	3	4	他	被災地/ 災害支援	子ども/ 青少年	福祉	国際	地域/ まちづくり	環境	文化/ 芸術	スポ ーツ	他
4月	267	131	136	98	56	22	44	17	29	1	88	116	40	21	2	180	52	34	53	79	55	35	23	18
5月	266	120	146	123	57	23	41	10	12	0	54	132	54	25	1	202	32	24	26	37	26	25	15	10
6月	244	134	110	106	55	24	41	18	0	0	56	103	61	14	0	172	26	15	21	41	31	19	13	8
7月	217	117	100	71	49	24	39	19	12	3	44	97	58	18	0	159	20	16	18	29	26	18	14	9
8月	81	44	37	46	13	7	7	3	3	0	29	23	18	11	0	51	10	7	7	11	6	3	5	5
9月	106	63	43	49	18	12	15	12	0	0	15	48	25	17	1	66	7	3	7	8	7	4	0	3
10月	230	146	84	104	58	21	27	19	0	1	37	108	52	31	2	16	16	9	8	14	15	11	6	2
11月	165	90	75	65	45	21	16	18	0	0	55	64	33	13	0	137	7	6	6	11	10	4	11	6
12月	151	83	68	61	34	11	32	18	0	0	53	52	32	19	0	131	6	5	2	9	4	3	3	2
1月	141	80	61	59	31	19	17	15	0	0	35	47	25	30	0	123	10	12	9	14	14	6	7	3
2月	90	44	46	45	19	8	12	5	1	0	41	29	8	12	0	88	4	4	6	5	4	3	1	0
3月	84	43	41	35	19	8	14	7	1	0	28	37	18	1	0	80	2	3	2	3	1	1	1	0
合計	2042	1095	947	862	454	200	305	161	58	5	535	856	424	212	6	1405	192	138	165	261	199	132	99	66

## ボランティアセンタールーム利用記録

※含、新ボランティアセンター学生ミーティングスペース利用件数 (2018/11～)

月	利用件数(件)	利用日数(日)	利用時間(分)	利用人数(人)
4月	149	19	8503	306
5月	61	24	6440	397
6月	63	23	7260	351
7月	56	23	6680	285
8月	16	13	2660	77
9月	27	12	2972	174
10月	69	26	6891	316
11月	89	40	7648	537
12月	91	30	6943	478
1月	37	22	4023	250
2月	19	18	3815	128
3月	16	12	2406	142
合計	693	262	66241	3441
月平均	57.8	21.8	5520.1	286.8

## ボランティアセンタールーム本貸出記録

年度	冊数
2013年度	48冊
2014年度	118冊
2015年度	51冊
2016年度	41冊
2017年度	75冊
2018年度	68冊



# 13. ボランティアセンター取組記録

2018年度

活動タイトル	日程	参加人数
<b>【スタディーツアー】</b>		
気仙沼スタディーツアー（面瀬学習支援・はまらいんや）	6月15日(金)～6月18日(月)	15
女川スタディーツアー（チーム女川）	6月22日(金)～6月24日(日)	14
神戸スタディーツアー	3月7日(木)～3月8日(金)	15
<b>【被災地支援】</b>		
面瀬学習支援 夏季活動事前調査	7月6日(金)～7月8日(日)	3
面瀬学習支援 夏季活動	8月15日(水)～8月25日(土)	46
面瀬学習支援 冬活動	12月21日(金)～12月30日(日)	33
面瀬学習支援 春活動	3月21日(木)～3月31日(日)	27
はまぎくのつぼみ 夏季活動事前調査	6月15日(金)～6月17日(日)	3
はまぎくのつぼみ 夏季活動①	8月10日(金)～8月14日(火)	8
はまぎくのつぼみ 夏季活動②	8月14日(火)～8月18日(土)	10
はまぎくのつぼみ 夏季活動③	9月11日(火)～9月15日(土)	12
はまぎくのつぼみ わたぼうし祭（活動写真展・宮古市物産展出店）	9月30日(日)	21
はまぎくのつぼみ 被災地物産展	11月19日(月)～11月23日(金)	20
はまぎくのつぼみ 冬活動	12月21日(金)～12月23日(日)	11
はまぎくのつぼみ 春活動	2月24日(日)～3月1日(金)	12
はまらいんや 夏季活動事前調査	8月6日(月)～8月9日(木)	2
はまらいんや 夏季活動	8月31日(金)～9月5日(水)	7
はまらいんや 冬事前調査	11月30日(金)～12月2日(日)	2
はまらいんや 冬活動	12月26日(水)～12月30日(日)	7
はまらいんや 春事前調査	2月9日(土)	1
はまらいんや 春活動	2月20日(水)～2月25日(月)	7
チーム女川 夏季活動①	8月6日(月)～8月9日(木)	11
チーム女川 夏季活動②	9月11日(火)～9月14日(金)	8
チーム女川 冬活動	12月22日(土)～12月24日(月)	5
チーム女川 春活動	2月14日(木)～2月17日(日)	6
チームくまもと 夏季活動事前調査	6月23日(土)～6月24日(日)	3
チームくまもと 夏季活動①	8月23日(木)～8月26日(日)	12
チームくまもと 夏季活動②	9月13日(木)～9月17日(月)	12
チームくまもと 冬活動	12月8日(土)～12月9日(日)	7
チームくまもと 春活動	3月9日(土)～3月12日(火)	12
真備 仮設住宅支援①	12月26日(水)～12月28日(金)	3
真備 仮設住宅支援②	1月12日(土)～1月15日(月)	7
真備 仮設住宅支援③	2月10日(日)～2月12日(火)	3
真備 春活動①	2月11日(月)～2月12日(火)	3
真備 春活動②	3月4日(月)～3月6日(水)	9
真備 春活動③	3月25日(月)～3月27日(水)	5
平成30年7月西日本豪災害募金箱設置	7月11日(水)～8月6日(月)	0
ボランティア活動写真展・ホームカミングデー物産展	10月7日(日)～10月12日(金)	202
<b>【夏季ボランティア】</b>		
大学間連携ネットワーク（気仙沼市プロジェクト）	8月5日(日)～8月8日(水)	12
大学間連携ネットワーク（石巻市雄勝プロジェクト）	8月13日(月)～8月15日(水)	2
大学間連携ネットワーク（山本町プロジェクト）	8月20日(月)～8月22日(水)	2
大学間連携ネットワーク（石巻市牡鹿半島プロジェクト）	8月27日(月)～8月29日(水)	9
<b>【クリーン作戦】</b>		
クリーン大作戦・春の陣	5月27日(日)	15
クリーン大作戦・秋の陣	11月25日(日)	18
りこボラ！ 山手線一周ゴミ拾い	5月3日(木)	11
りこボラ！ クリーン大作戦	6月16日(土)	19
りこボラ！ 文京区街道ゴミ一掃作戦	9月16日(日)	6
クリーン作戦 ミニッツ①	4月26日(木)	9
クリーン作戦・ミニッツ②	6月14日(木)	12
<b>【地域ボランティア】</b>		
めぐみ野自然の会①	4月7日(土)	1
ユギ里山ファーム①	4月14日(土)	2
せせらぎ農園①	4月22日(日)	2
ユギ里山ファーム②	4月28日(土)	2
落川交流センター・炊き出し訓練&マルシェ①	4月29日(日)	3

活動タイトル	日程	参加人数
めぐみ野自然の会②	5月5日(土)	1
ひの新選組まつり	5月12日(土)～5月13日(日)	17
ユギ里山ファーム③	5月26日(土)	1
落川交流センター・炊き出し訓練&マルシェ②	5月27日(日)	3
めぐみ野自然の会③	6月2日(土)	0
ユギ里山ファーム④	6月9日(土)	0
せせらぎ農園②	6月10日(日)	0
めぐみ野自然の会④	6月16日(土)	0
大豆プロジェクト①	6月16日(土)	0
落川交流センター・炊き出し訓練&マルシェ③	6月24日(日)	2
せせらぎ農園③	7月1日(日)	3
村井雅清氏講演「神戸から始まった災害支援に取り組んだ23年間」	7月2日(月)	60
ユギ里山ファーム⑦	8月25日(土)	1
めぐみ野自然の会⑩	9月29日(土)	1
まちづくり市民フェア2018	10月21日(日)	24
落川交流センター⑥	10月28日(日)	5
めぐみ野自然の会⑩	11月17日(土)	1
落川交流センター⑦	11月25日(日)	4
大豆プロジェクト⑦	12月15日(土)	1
みちあそび	12月16日(日)	2
南大沢キャンドルナイト	12月22日(土)	1
落川交流センター⑧	12月23日(日)	3
落川交流センター⑨	2月24日(日)	1
めぐみ野自然の会⑰	3月16日(土)	2
<b>【チーム防災】</b>		
チーム防災 救命救急講習補助 (保護者対象) @日野市つくしんぼ保育園	4月27日(金)	3
チーム防災 災害シミュレーション型ワークショップ参加 @拓殖大学	4月28日(土)	6
チーム防災 町田市×八王子市チャレンジ防災	5月20日(日)	4
チーム防災 宮上小ひなんじょ運営委員会 すごろく体験	6月15日(金)	5
チーム防災 五小祭実行委員会	6月17日(日)	1
チーム防災 教養総合授業で講演 (被災地活動編) @中央大学附属高校	6月26日(火)	4
チーム防災 南平高校HUG	7月5日(木)	4
チーム防災 防災ゲームDay (チーム防災&りこボラ!) @そなエリア東京	7月7日(土)	26
チーム防災 南多摩医療圏	7月17日(火)	3
チーム防災 日野第六小学校カエルキャラバン	7月20日(金)	1
チーム防災 日野第五小学校祭 (防災すごろく)	7月21日(土)	7
チーム防災 日野市防災減災シンポジウム	8月5日(日)	6
チーム防災 被災地に学ぶプロジェクト・気仙沼物産展	8月8日(水)	2
チーム防災 日野市立七生中学校宿泊防災訓練	8月17日(金)～8月18日(土)	3
チーム防災 帝京大学小学校アフタースクール授業 (防災ゲーム)	8月28日(火)	7
チーム防災 平山苑防災訓練	9月22日(土)	9
チーム防災 拓殖大学トリアージ訓練	9月29日(土)	3
チーム防災 滝合小学校カエルキャラバン	10月20日(土)	4
チーム防災 防災授業 @中央大学附属中学校	10月26日(金)	12
チーム防災 平山苑 防災訓練	11月25日(日)	10
チーム防災 平山苑黄色いハンカチ運動	11月25日(日)	10
チーム防災 日野市災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	12月13日(木)	2
チーム防災 七生中学校HUG	12月17日(月)	3
チーム防災 南平高校HUG	12月20日(木)	2
チーム防災 防災甲子園表彰式	1月13日(日)～1月14日(月)	3
チーム防災 防災授業 @中央大学附属高校	2月12日(火)	5
チーム防災 ひのっちボランティアスタッフ防災研修	2月26日(火)	10
チーム防災 平山小HUG	10月19日(土)	3
<b>【講座・説明会】</b>		
公認学生団体 新歓活動 (多摩キャンパス)	4月2日(月)～4月6日(金)	102
公認学生団体 スタートアップセミナー (多摩キャンパス)	4月5日(木)	77
公認学生団体 新歓活動 (後楽園キャンパス)	4月5日(木)	31
公認学生団体 スタートアップセミナー (後楽園キャンパス)	4月6日(金)	15
公認学生団体個別説明会 (多摩キャンパス)	4月13日(金) 4月17日(火) 4月23日(月) 5月15日(火)	120
理工学部新入生ガイダンス (後楽園キャンパス)	4月6日(金)	58
花花花見 りこボラ! (後楽園キャンパス)	4月6日(金)	59
りこボラ! 新歓活動 知り放題ランチ (後楽園キャンパス)	4月16日(月)	35

### 13. ボランティアセンター取組記録

活動タイトル	日程	参加人数
りこボラ! 防災ゲーム体験会 (後楽園キャンパス)	4月18日(水)	15
りこボラ! お菓子パーティー (後楽園キャンパス)	4月23日(月)	47
りこボラ! わんぱく相撲 (文京区総合体育館)	4月29日(日)	15
りこボラ! ボラカフェ① (後楽園キャンパス)	5月23日(水)	24
りこボラ! 表町町会避難訓練 @礪川小学校	6月3日(日)	7
りこボラ! ボラカフェ② (後楽園キャンパス)	6月19日(火)	24
りこボラ! 「聞かなきゃ損する ボランティア入門講座」 (後楽園キャンパス)	6月25日(月)～6月26日(火)	122
りこボラ! ボラカフェ③ (後楽園キャンパス)	7月10日(火)	19
りこボラ! 平成30年7月西日本豪災害募金活動 (後楽園キャンパス)	7月18日(水)～8月19日(日)	28
りこボラ! 大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー	9月4日(火)～9月5日(水)	5
りこボラ! 文京区関水町会お祭り	9月9日(日)	3
りこボラ! 振り返りワークショップ (後楽園キャンパス)	9月29日(土)	13
りこボラ! 新型実践防災デイキャンプ (後楽園キャンパス)	1月15日(火)	22
公務員になりたい人のためのボランティア講座	6月1日(金)	55
公務員になりたい人のためのボランティア講座バスツアー①	6月9日(土)	10
プレリーダー・ワークショップ @冒険遊び場・どろんこの国	6月23日(土)	5
公務員になりたい人のためのボランティア講座バスツアー②	6月24日(日)	10
傾聴講座(学生相談室とのコラボ)	7月14日(土)	67
公認学生団体 夏季決起集会&うどんパーティー	7月14日(土)	80
災害ボランティアの心構え講座	8月4日(土)	15
2018年度災害救援ボランティア講座 (多摩キャンパス・立川防災館)	8月6日(月)～8月8日(水)	51
ボランティア・振り返りワークショップ (多摩キャンパス)	9月23日(日)	53
ボランティアウィーク (ボランティア活動報告会、含理工オリエンテーション)	10月8日(月)～10月11日(木)	23
理工白門祭	11月2日(金)～11月4日(日)	6
学生ボランティア体験報告会 (多摩キャンパス)	11月3日(土)	27
白門祭	11月3日(土)～11月4日(日)	10
ボランティア・フェア	12月10日(月)～12月12日(水)	26
大学間連携災害ボランティアシンポジウム	12月15日(土)	5
ボランティアセッション	2月2日(土)	9
<b>【イベント・シンポジウム】</b>		
後楽園ボランティアシンポジウム	2月3日(日)	38
ボランティアセンターシンポジウム	2月5日(火)	56
大学生ボランティア活動報告会&イベント 被災地と多摩地域の架け橋	2月6日(水)～2月10日(日)	24
合計	2411	

# 14. 協定・助成金

## (1) 協定

- ・2014年3月12日「日本財団学生ボランティアセンター」との間で「学生ボランティア活動推進」に関する協定の締結

## (2) 助成金

- ①2018年度Yahoo!基金（夏休み学生ボランティア被災地復興活動支援助成プログラム）
  - チームくまもと
  - チーム女川
  - はまぎくのつぼみ
  - はまらいんや
  - 面瀬学習支援
- ②信濃育英会
  - 面瀬学習支援【30万円】
- ③日野市役所・市民活動支援補助金
  - チーム防災【5万円】
- ④2018年度学生ボランティア団体助成事業（一般財団法人学生サポートセンター）
  - 面瀬学習支援【10万円】
- ⑤2018年西日本豪雨災害大学ボランティアセンター助成事業（社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団）
  - ボランティアセンター【30万円】
- ⑥八王子市ボランティアリーダー養成活動助成金

# 15. メディア掲載

## 1. 大学関係広報誌

---

### (1) 草のみどり

#### ①ボランティア通信

- (5月号) Vol.13 理系でもボランティアを日常に りこボラ!の創設と今  
池田 木綿奈 : 理工学部人間総合理工学科4年
- (7月号) Vol.14 ボランティアを通じて学んだ特別なこと  
梅森 隼 : 総合政策学部政策科学科3年
- (9月号) Vol.15 継続的支援の重要性 ~宮古市での復興支援を通して~  
今野 陽介 : 総合政策学部政策科学科3年
- (11月号) Vol.16 「はまらいんや」での貴重な経験と学び  
千葉 麻由 : 文学部人文社会学科社会学専攻3年
- (1月号) Vol.17 コミュニティ支援とは チーム女川の新しい挑戦  
日下部 真莉 : 法学部政治学科3年
- (3月号) Vol.18 今日を生ききる力になることをめざし未来へ続く礎となる  
木村 亘佑 : 法学部国際企業関係法学科4年  
白須 花恵 : 法学部国際企業関係法学科4年  
赤間 環 : 法学部政治学科4年

#### ②ボランティアセンターより

- (5月号)
- ・ボランティアセンター5周年記念シンポジウムを行いました
  - ・ボランティアを行う学生が表彰されました
- (7月号)
- ・ボランティアの現場より~環境編~
- (9月号)
- ・多くのニーズに応えられるような講座を行っています
  - ・ボランティアの現場より~国際編~
- (11月号)
- ・東北・熊本・多摩地域で夏ボラを行いました
  - ・中央大学ボランティアセンター公認学生団体の活動
  - ・災害救援ボランティア講座を行いました
  - ・2018年7月に起きた豪雨災害のボランティアも活躍しています
- (1月号)
- ・ボランティアウィーク 一写真展、物産展、報告会
  - ・「ボランティア学生の体験発表会」と白門祭出店
- (3月号)
- ・ボランティアフェア、公認学生団体の冬活動、
  - ・倉敷市真備町でのボランティア活動
  - ・チーム防災が平成30年度「ぼうさい甲子園だいじょうぶ賞」受賞
  - ・後樂園キャンパスで「新型実践防災デイキャンプ」実施

## (2) 中央大学学員時報

学生支援・震災ボランティア活動支援  
平成30年度 学員会会長賞

## (3) 中央大学新聞

部会散歩 チームくまもと 「震災を乗り越えて」（5月31日）  
被災地支援ボランティア チーム女川の現在（6月29日）

## 2. 新聞記事

メディア名	内容	掲載日
朝日新聞 多摩13版	「話を聞く それが熊本支援」	2018/4/17
石巻かほく	チーム女川	2018/8/10
読賣新聞	チームくまもと	2018/8/24
熊本日日新聞	チームくまもと	2018/8/26
岩手日報	はまぎくのつぼみ	2018/9/17
岩手日報	はまぎくのつぼみ	2018/9/17
毎日新聞Webサイト 「@大学」中央大	チーム防災（防災百人一首） @日野市民フェア	2018/10/19_朝10時
読賣新聞	チーム防災（楽しく学ぶ防災百人一首）	2018/11/4
読賣新聞	チームくまもと・センター長 （被災地支援活動を報告）	2018/11/4
日刊建設工業新聞	チーム防災（防災百人一首）	2018/10/26
東京新聞	チーム防災（防災百人一首）	2018/10/24
日本経済新聞	チーム防災（防災百人一首）	2018/11/21
福井新聞	チーム防災（防災百人一首）	2018/11/28
毎日新聞	チーム防災（ぼうさい甲子園）	2018/12/5
三陸新報	面瀬学習支援	2018/12/23
石巻かほく	チーム女川	2018/12/27
朝日新聞	被災地ボランティア 多摩の学生ら報告へ 八王子5日 日野6～10日	2019/2/1
東京新聞	Campusインフォメーション（第5回大学生 ボランティア写真展&イベント2019）	2019/2/2
毎日新聞(宮城)	はまらいんや春活動	2019/2/26
三陸新報	はまらいんや春活動	2019/2/28
読賣新聞	神戸スタディ ツアー	2019/3/8

### 話を聞くそれが熊本支援

#### 中大・木村さん、故郷で傾聴ボランティア

熊本県で被災した熊本県民生活の現状を、中大生が故郷で学ぶ。傾聴ボランティアとして、被災者の話を聞き、心のケアをする。中大生が故郷で学ぶ。傾聴ボランティアとして、被災者の話を聞き、心のケアをする。



中大生が故郷で学ぶ。傾聴ボランティアとして、被災者の話を聞き、心のケアをする。

### 中大生の被災地支援活動 知って

#### 写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス

中大生が被災地支援活動を知って。写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス。中大生が被災地支援活動を知って。写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス。



中大生が被災地支援活動を知って。写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス。

### 仮設の子に夏の思い出を

#### 西原村の小森田地 中央大生有志 水遊びで交流

中大生が被災地の子供たちに夏の思い出を。西原村の小森田地 中央大生有志 水遊びで交流。中大生が被災地の子供たちに夏の思い出を。西原村の小森田地 中央大生有志 水遊びで交流。



中大生が被災地の子供たちに夏の思い出を。西原村の小森田地 中央大生有志 水遊びで交流。

### 被災地支援活動を報告

#### 中央大生 熊本など復興状況語る

中大生が被災地支援活動を報告。中央大生 熊本など復興状況語る。中大生が被災地支援活動を報告。中央大生 熊本など復興状況語る。



中大生が被災地支援活動を報告。中央大生 熊本など復興状況語る。

### 中大生の被災地支援活動 知って

#### 写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス

中大生が被災地支援活動を知って。写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス。中大生が被災地支援活動を知って。写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス。



中大生が被災地支援活動を知って。写真パネル展示や各地の名産販売 多摩キャンパス。

### 復興の過程伝えたい

#### 津久井 星美さん

中大生が復興の過程を伝えたい。津久井 星美さん。中大生が復興の過程を伝えたい。津久井 星美さん。



中大生が復興の過程を伝えたい。津久井 星美さん。

### 宮古の「今」学び発信

#### 奇り添い続ける

中大生が宮古の「今」を学び発信。奇り添い続ける。中大生が宮古の「今」を学び発信。奇り添い続ける。



中大生が宮古の「今」を学び発信。奇り添い続ける。

### 被災地支援活動を報告

#### 中央大生 熊本など復興状況語る

中大生が被災地支援活動を報告。中央大生 熊本など復興状況語る。中大生が被災地支援活動を報告。中央大生 熊本など復興状況語る。



中大生が被災地支援活動を報告。中央大生 熊本など復興状況語る。







**住民にクリスマスカード  
災害公営住宅訪問し交流**

【石巻市】中央大ボランティアチーム(中ボ)が、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。

石巻かほく 2018年12月27日



**ボール遊びや散策も  
中央大が学習支援継続**

【石巻市】中央大ボランティアチーム(中ボ)が、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。



**被災地ボランティア  
多摩の学生ら報告へ  
八王子の日野6、10日**

【石巻市】中央大ボランティアチーム(中ボ)が、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。



活動を振り返る中央大の中田さん



**神戸の教訓東北へ  
震災8年  
震災ボランティア学芸会**

【石巻市】中央大ボランティアチーム(中ボ)が、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。



**被災者訪問支援7年、活動に区切り**

【石巻市】中央大ボランティアチーム(中ボ)が、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。

【石巻市】中央大ボランティアチーム(中ボ)が、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。中ボは、被災地復興支援の一環として、12月27日(土)、石巻市東区にある災害公営住宅「東区東町」を訪れ、住民と交流した。

**キャンパス インフォメーション**

【中ボ】第5回大学生ボランティア学習支援イベント2019 被災地と多摩地域の取り組み-大学生はなせ被災地へ(報告) 12月27日(土)18時-20時(東区東町) 12月28日(日)10時-12時(東区東町) 12月29日(月)10時-12時(東区東町) 12月30日(火)10時-12時(東区東町) 12月31日(水)10時-12時(東区東町)

【中ボ】第5回大学生ボランティア学習支援イベント2019 被災地と多摩地域の取り組み-大学生はなせ被災地へ(報告) 12月27日(土)18時-20時(東区東町) 12月28日(日)10時-12時(東区東町) 12月29日(月)10時-12時(東区東町) 12月30日(火)10時-12時(東区東町) 12月31日(水)10時-12時(東区東町)

### 3. テレビ放映

倉敷ケーブルテレビKCTニュース	中央大生が足湯・折り紙カフェ	2019/1/13
岡山放送OHKプライムニュース	刻々と変わるニーズ豪雨ボランティア	2019/1/16
KSB瀬戸内海放送サイト	真備町の仮設住宅でタコパ！交流促進 目指し、中央大生らが企画	2019/3/4
TSC テレビせとうち公式サイト	真備町の仮設住宅を支援 中央大の学 生が真備町を訪問	2019/3/4
NHK岡山放送局岡山県のニュース	仮設で学生がたこ焼きふるまう	2019/3/5
倉敷ケーブルテレビKCTニュース	中央大生が仮設団地の住民と交流	2019/3/5

### 4. ラジオ放送

J-WAVE JAM THE WORLD HEART TO HEART チームくまもと（藤原 凌）  
2019/1/22

### 5. 広報誌など

メディア名	内容	掲載日
東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課大学ボランティアセンター事例集p23-24	中央大学ボランティアセンター	2018_3月発行
東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課大学ボランティアセンター事例集p25-26	中央大学ボランティアセンター	2018_3月発行
日野市ボランティア・センター ボランティアインフォメーション（イベント報告）	公務員と巡る！五感で感じるバスツアー	2018_7月号

# 16. 作成物掲載

## 1. 刊行物

---

- ・2017年度版ボランティアセンター報告書
- ・2018中央大学ボランティアセンター公認学生団体紹介冊子
- ・ボランティアセンターリーフレット
- ・CVCだよりVol.8新春号

## 2. ポスター・チラシ

---

- ・クリーン作戦「春の陣」 (5月27日)
- ・公務員になりたい人のためのボランティア講座・バスツアー (6月1日・9日・24日)
- ・夏季集中ボランティア2018被災地で他大学生と共に学ぼう！活動しよう！ (6月)
- ・子どもと遊ぶ現場のプロである「プレーリーダー」さん達から、子どもたちとの関わり方を学ぶワークショップ (6月23日)
- ・講演会：「村井雅清氏、神戸から始まった災害支援に取り組んだ23年間」 (7月2日)
- ・傾聴講座 (7月14日)
- ・平成30年7月豪雨災害ボランティア参加者のための災害ボランティアの心構え講座 (8月4日)
- ・学生ボランティア写真展・物産展 (10月7日)
- ・ボランティア写真展・活動報告会 (10月7日～12日)
- ・ボラカフェ (10月25日)
- ・ボランティア学生の体験発表会 (11月3日)
- ・クリーン作戦「秋の陣」 (11月25日)
- ・ボランティアフェア (12月10日・12日)
- ・「来るべき災害時、あなたはどのように動きますか？～新型実践防災デイキャンプ～」 (1月15日)
- ・試験が終われば春休み。  
 一歩踏み出したいアナタを待っているボランティア・セッション (2月2日)
- ・第1回後楽園ボランティアシンポジウム (2月3日)
- ・中央大学ボランティアセンターシンポジウム～私たちが繋ぐ中大ボラセン魂～ (2月5日)
- ・～大学生ボランティア活動報告&イベント～被災地と多摩の架け橋  
 大学生はなぜ、被災地に通い続けるのか？ (2月9-10日)

# 17. ボランティアセンター組織規約

## 中央大学ボランティアセンター及びボランティアセンター運営委員会設置要綱

(設置)

第一条 中央大学学生部内にボランティアセンターを置く。

(目的)

第二条 ボランティアセンターは、中央大学学生のボランティア活動を促進し支援することを目的とする。

(センター長)

第三条 ボランティアセンターにボランティアセンター長を置く。

2 ボランティアセンター長は、本学専任教員の中から、学生部長の推薦に基づき学生部委員会に諮って、学長が委嘱する。ただし、学生部長は、推薦に先立ち、当該専任教員が所属する学部長又は大学院研究科長と事前に協議するものとする。

3 ボランティアセンター長の任期は二年とし、再任を妨げない。

(運営委員会の設置)

第四条 中央大学学生部内に中央大学ボランティアセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、第二条の目的にのっとり、ボランティアセンターの運営について審議決定する。

(運営委員会の構成)

第五条 運営委員会は、次の者をもって構成する。

- 一 ボランティアセンター長
- 二 学生部委員の互選による者一人
- 三 各学部教授会で互選した者 各一人
- 四 学生部事務長及び学生課長
- 五 学生部長が指名する者 若干人

2 運営委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(運営委員長)

第六条 運営委員会の委員長は、ボランティアセンター長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、前条第二号及び第三号の委員の互選により、その代行者を定める。

3 委員長は、運営委員会を招集し、議長となる。

(運営委員の任期)

第七条 第五条第一項第三号に定める委員の任期は二年とし、再任を妨げない。

(運営委員会の任務)

第八条 運営委員会は、第二条の目的を達成するため、次の事柄について検討し、必要な施策を実施する。

- 一 中央大学学生によるボランティア活動の促進と支援
- 二 ボランティア活動に関連する正課教育や関係部課室との連携
- 三 その他、目的達成のために必要な施策

(事務所管)

第九条 運営委員会に関する事務は、学生部事務室学生課が所管する。

附則 この要綱は、平成二七年四月一日から施行する。

## 2018年度ボランティアセンター運営委員

区 分		所 属	氏 名(敬称略)
一号委員	ボランティアセンター長(運営委員長)	法学部	中澤 秀雄
二号委員	学生部委員の互選による者	法学部	檜崎 みどり
三号委員	各学部教授会で互選した者	法学部	平山 令二
		経済学部	丸山 佳久
		商学部	中村 亨
		文学部	山科 満
		理工学部	田口 善弘
		総合政策学部	岩田 重則
四号委員	学生部事務長	学生部事務室	佐々木 文昭
	学生課長	学生課	石橋 敦史
五号委員	学生部長が指名する者	学生課	開澤 裕美
		学生課	藤室 玲治

## 2018年度ボランティアセンター公認学生団体 顧問

団体名	学部	氏 名(敬称略)
はまぎくのつぼみ	文学部	山科 満
	法学部	小室 夕里
	文学部	吉野 朋美
はまらいんや	法学部	中澤 秀雄
面瀬学習支援	法学部	西 亮太
チーム女川	文学部	大川 真
チームくまもと	法学部	平山 令二
	総合政策学部	岩田 重則
チーム防災	商学部	中村 寛樹
りこボラ!	理工学部	田口 善弘

## ボランティア情報の取扱いに関する方針

中央大学ボランティアセンターでは、以下に該当する募集团体の活動を、学内掲示板、ファイル閲覧、ML、コーディネーターによる相談業務を通じて、学生に広くボランティア活動の情報提供をしております。

- 1) 公益性・公共性が高い活動
- 2) 営利を目的としない活動
- 3) 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
- 4) 受け入れた学生に対し、教育的に配慮を伴った対応をする活動

つきましては、下記項目に同意の上、情報提供いただけますようご理解のほどお願いいたします。

なお、情報提供にともなってなされた一切の行為とその結果については、参加者募集を希望した団体において責任を負っていただけますようお願い申し上げます。

情報提供につきましては、中央大学ボランティアセンターで所定の審査のうえ決定いたします。提供の可否または提供予定日についてはご連絡いたしませんのでご承知おきください。また、学生の自主的な思いで活動を選択することになりますので、募集をしました件につきまして活動者が必ず見つかるとは限りませんのでご理解ください。

御団体から提供いただきました個人情報につきましては、中央大学ボランティアセンターにて活動情報の提供の目的にのみ使用させていただきます。

### 1. ボランティア募集の受付

- ▶ ボランティアセンターに電話・E-mail等で情報募集チラシ等の設置、募集内容についてご連絡ください。受付時に簡単な聞き取り調査をさせていただきます)
- ▶ ボランティアセンターから、E-mailもしくは郵送で「団体登録票」をお送りします。
- ▶ ご記入いただいた「団体登録票」と一緒に、団体概要パンフレット、担当者の名刺、情報募集チラシ等を郵送、もしくはセンターに直接お持ちください。
- ▶ 登録完了後、ボランティアセンターにて、お預かりしたボランティア情報をポスターやチラシ等で周知します。

### 2. ボランティア募集を行う団体・活動の選定基準

- 1) ボランティア募集を行う団体の範囲  
活動分野や範囲、法人格の有無は問いません。  
例) ボランティア・市民活動団体（任意団体、NPO）、社会福祉法人、医療法人、学校法人、社団法人や財団法人等の公益法人、国や地方自治体、独立行政法人、国連機関、大使館、企業（非営利による社会貢献活動に限ります）、労働組合など
- 2) ボランティア募集团体の受入れ体制について
  - ✓ ボランティアの募集や受入れの担当者が明確であること
  - ✓ 有償活動とボランティア活動を明確に区別していること
- 3) 以下に該当するボランティア活動は、受付できません
  - ✓ 政治的・宗教的活動に関する内容の場合。特定の政治組織や宗教団体への加入を強要・勧誘するような活動に関する内容の場合
  - ✓ 日本国または国際法上の法令に抵触する場合
  - ✓ 公序良俗に反する、または犯罪的行為を誘発するおそれのある内容の場合
  - ✓ 第三者に損害または不利益を与えたり、第三者を誹謗中傷する場合

## 17. ボランティアセンター組織規約

- ✓ 情報が虚偽または誇大の内容の場合
- ✓ 情報に関する責任体制が明確でない場合
- ✓ 精神的・肉体的苦痛が心配される場合
- ✓ 水泳監視・ベビーシッター・病人の介護等の人命にかかわることが予想される場合
- ✓ 車の運転が活動の内容に含まれる場合
- ✓ 宿泊を伴う場合（キャンプボランティアなど、適切に夜間睡眠が確保される場合についてはこの限りではない）
- ✓ 本来有資格者によってなされるべき活動の場合
- ✓ その他不相当だと判断されたもの

### **3. ボランティア受入れ団体との申し合わせ**

ボランティア受入れ団体と中央大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認いたします。

- ✓ 申込をした学生に対し活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意の上、活動をはじめること
- ✓ 活動をはじめの前には、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動がはじまった後は、必要に応じて研修や支援等をおこなうこと
- ✓ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動をおこなうこと
- ✓ 申込をした学生が適切なボランティア保険に加入済みであることを確認してから活動を始めること。ボランティア保険に未加入の場合は、申込を受け付けないこと
- ✓ 活動時間は、休憩を入れて1日8時間、週28時間を超えないこと（外国人留学生の資格外活動における就労時間に準拠）
- ✓ 夜10時以降の深夜活動をさせないこと

### **4. 免責**

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して、発生したトラブル等に対してセンターでは責任を負いかねます。予めご了承ください。

以上

中央大学ボランティアセンター団体登録シート		事務局記入欄 受付日 年 月 日
団体名 (正式名称)	※当てはまるものに○をつけてください NPO 法人・社会福祉法人・公益財団／公益社団法人 一般財団／一般社団法人・学校法人・任意団体・学生団体・行政・その他 ( )	
	ふりがな	
住所	〒	
担当者名	ふりがな	
連絡先	TEL      -      -      E-mail	
団体の説明	1) 設立年月日                              年                              月	
	2) 活動分野 (当てはまるものに○をつけてください) 環境 ・ 国際 ・ こども／青少年福祉 ・ 文化／芸術 ・ 地域／まちづくりスポーツ ・ その他 ( )	
	3) 団体のミッション (設立趣旨)	
	4) 主な活動内容	
	5) 主な活動場所	
	最寄駅	
	6) 中央大学の学生ボランティアの受入れ経験 有 ・ 無 (有の場合: 約 人)	
	7) 学生ボランティアに期待すること	
8) 学生が貴団体の活動に参加することによって学べること		
ボランティア保険	※当てはまるものに○をつけてください 団体により加入する ・ 個人で加入する必要あり	



## 2018年度 中央大学ボランティアセンター報告書

発行	2019年6月27日
発行者	中央大学ボランティアセンター 〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1 Tel: 042-674-3487 Fax: 042-674-3469 E-mail: chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp <a href="http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/">http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/</a>
印刷	明誠企画株式会社

発行日 2019年6月27日  
発行者 中央大学ボランティアセンター